[令和4年2月14日 太陽電池部会資料]

さいたま小川町メガソーラー

環境影響評価準備書

補足説明資料

令和4年2月 小川エナジー合同会社

# 補足説明資料 目 次

1.	調整池について1
2.	集水桝の構造、配置について12
3.	小段の幅、盛勾配、地山の GL などについて14
4.	現地での締固め密度管理について18
5.	緑化計画等について19
6.	関連設備(送電施設)について20
7.	気温の示し方について
8.	対象事業実施区域周辺の住居について23
9.	工事用搬入ルートについて
10.	日射量と放射収支量の単位について30
11.	大気質調査の調査時の写真について31
12.	大気環境の予測地点について39
13.	建設機械の影響について40
14.	工事用車両の走行時の等価騒音レベルついて42
15.	集水域について43
16.	
17.	反射光について48
18.	水域の改変により水生動物に影響を及ぼす可能性について50
19.	オニシバリ、ミゾコウジュの移植先について52
20.	森林群落(木本)の組成表の組み方について55
21.	低反射型太陽光パネルの景観について67
22.	ミゾゴイなど他の種の事後調査について69

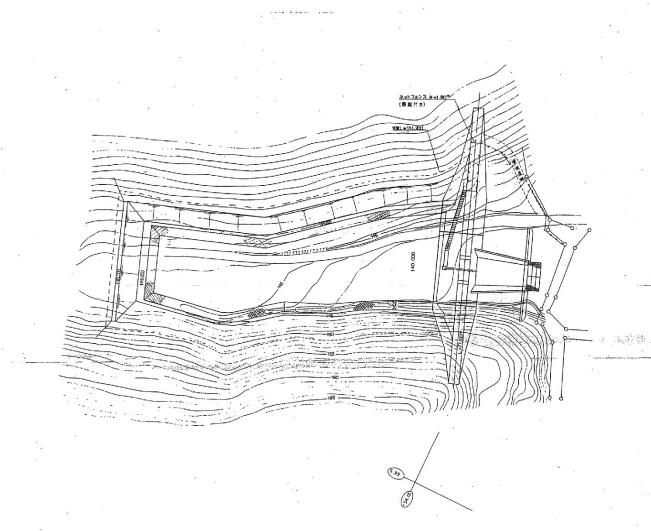
### 1. 調整池について

調整池について、オリフィスの構造がわかる図面、H. W. L、L. W. L 時のオリフィスからの放流量などの諸元データ、状況が確認できる写真などを、補足資料として提出すること。

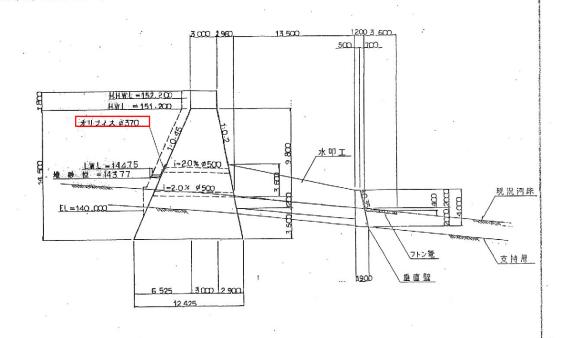
構造及び H. W. L、オリフィスからの放流量、現状が分かる図面を次ページ以降、図 1-1~図 1-10 に示しました。

# 図 1-1 No.1 調整池

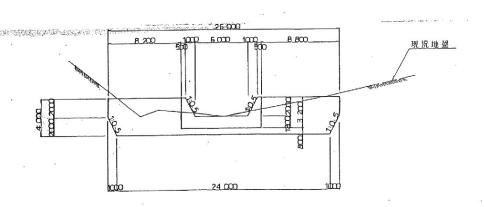
# 側面図 S=1/200



平面図 s=1/500



# 垂直壁断面図 s=1/200



オリフィス直径 Φ370 オリフィス放流量 0.735m³/s

※し、W、L(維砂位)の設計変更によりBLが、 上昇した為、オリフィス桝を増設。 詳細については一般構造図(その3)を参照。

プリムコ	コーズカントリー倶楽音							
図面名称	阿整他根边图							
縮 尺	図 示・							
図面番号	21-1-1 水 版 檢 図 坦 当 賀							
設計年.月	平政 年 月							
設 計								



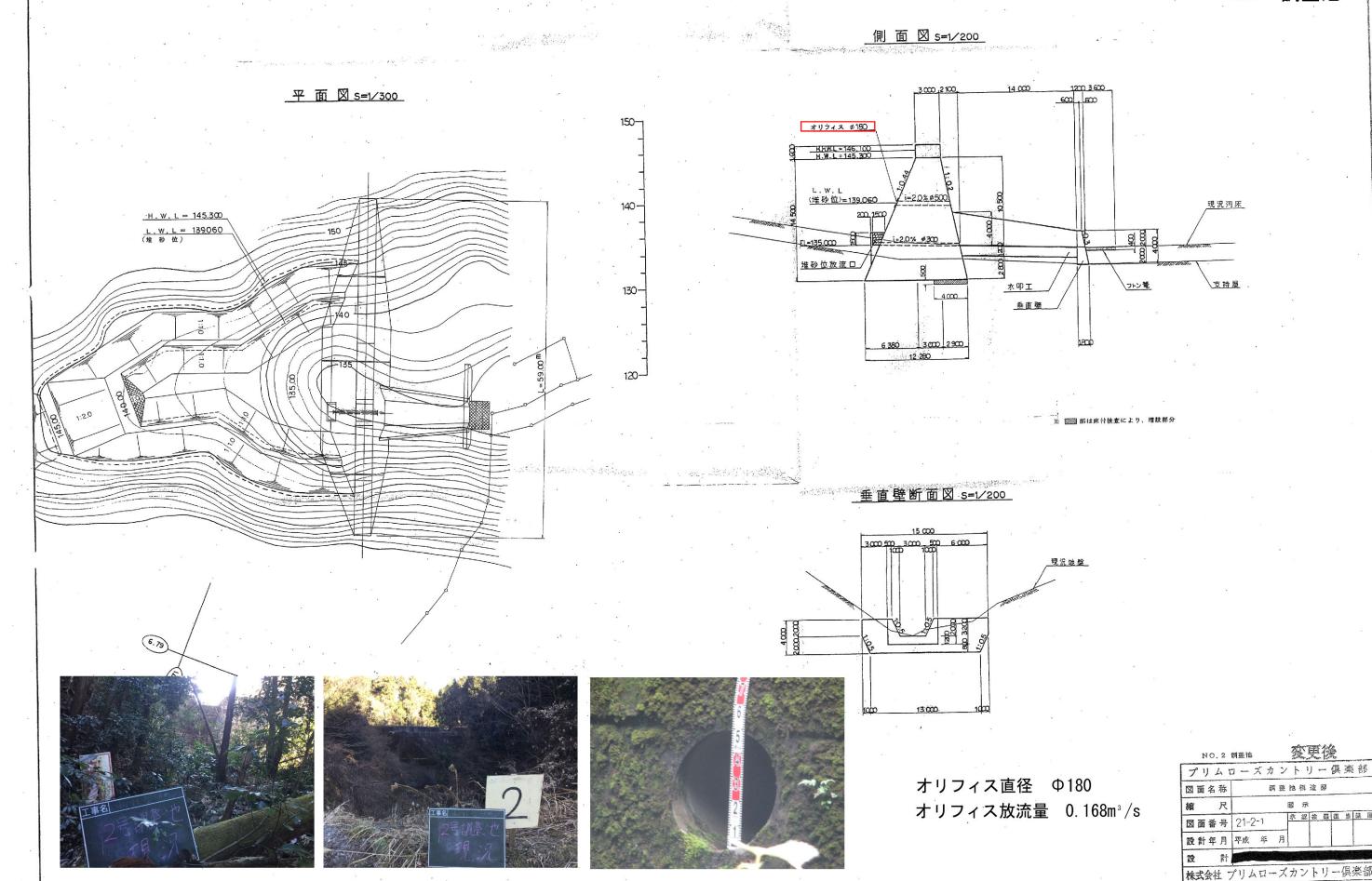
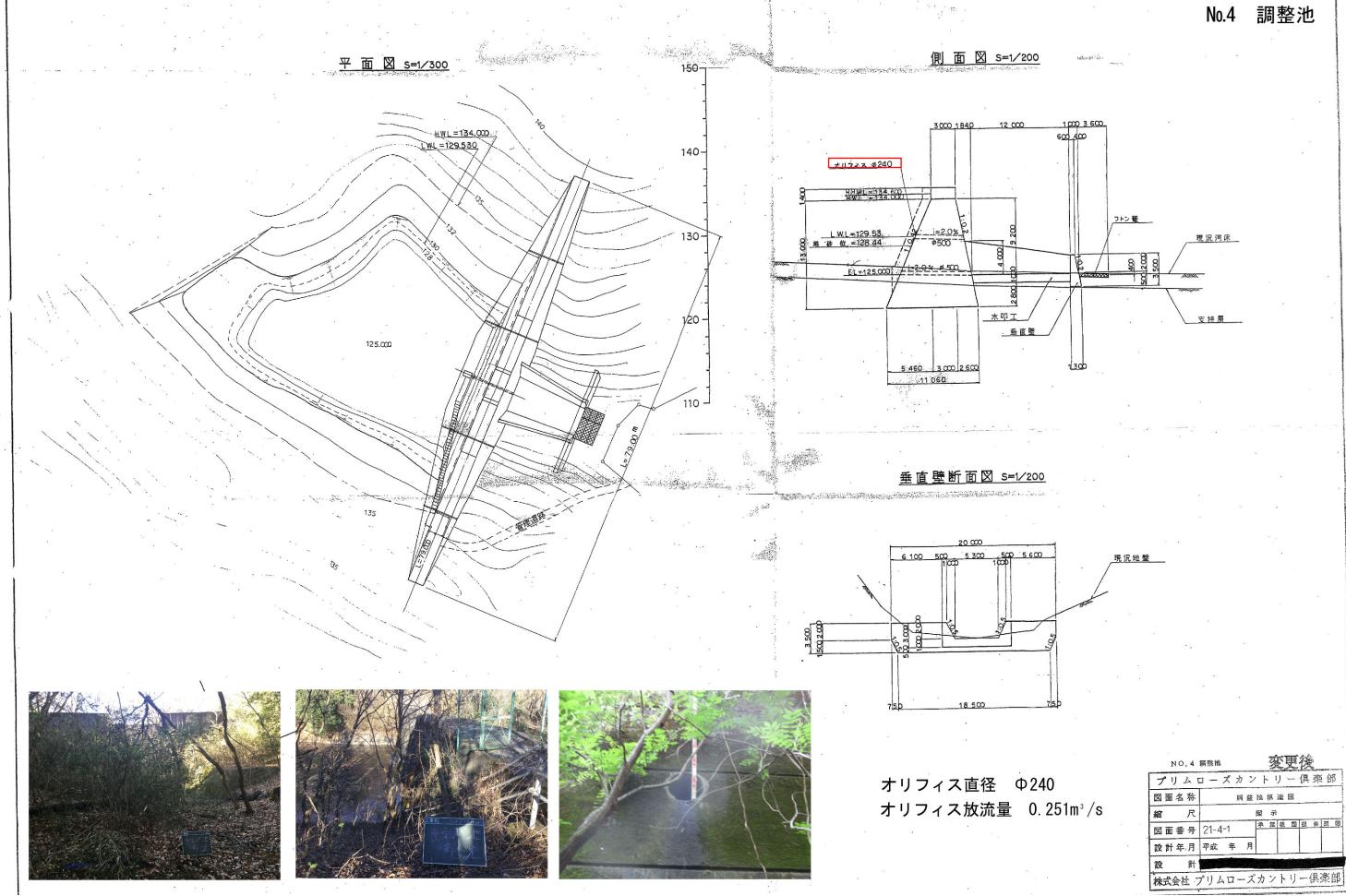
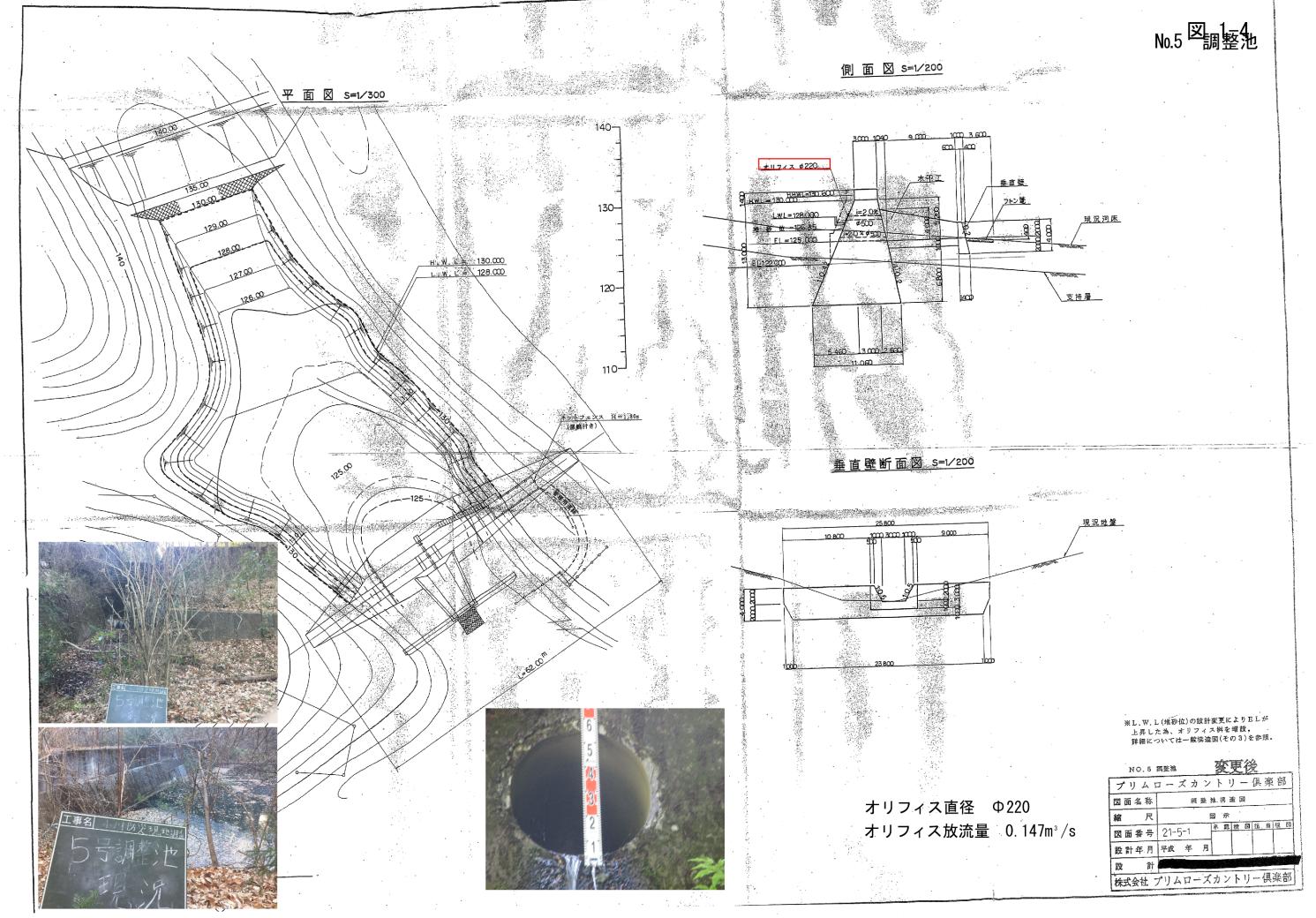
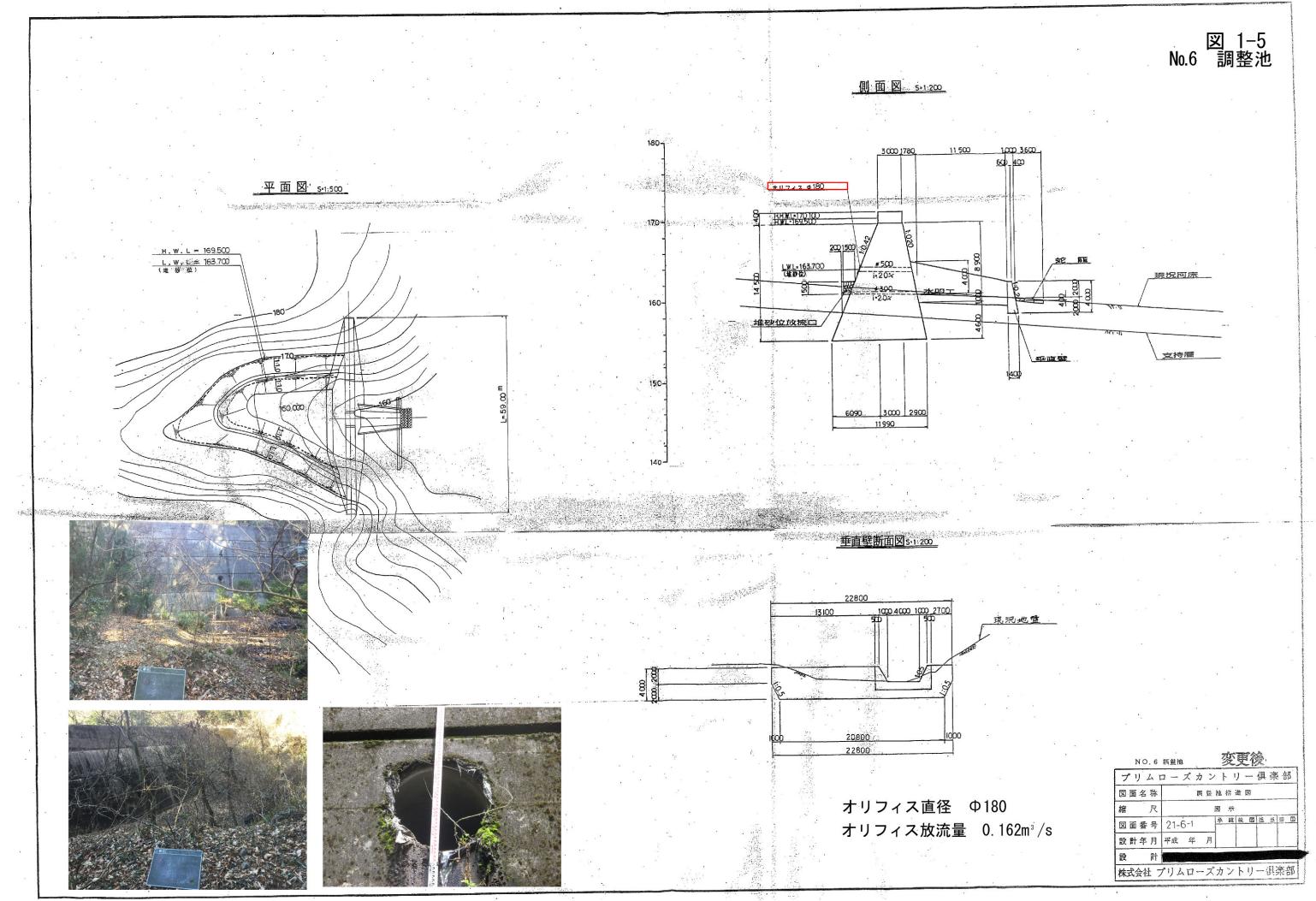


図 1-3 Vo.4 調整池

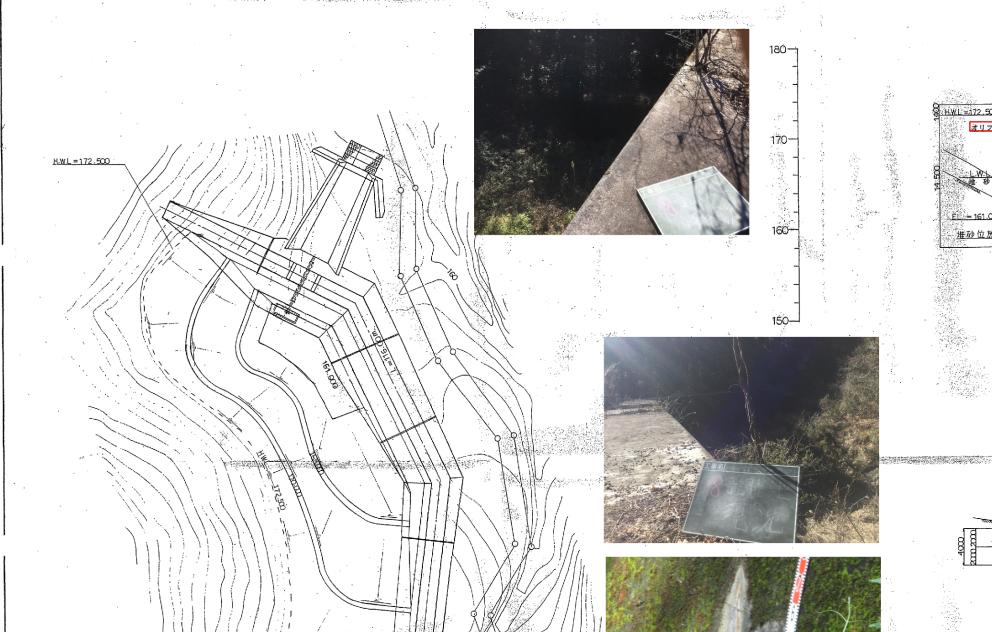




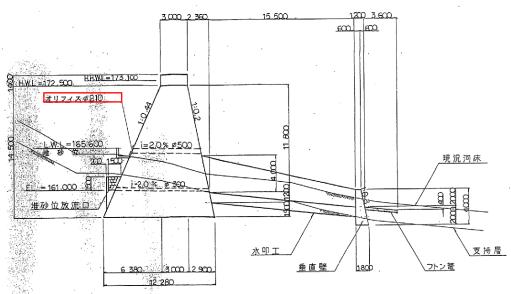


# 図 1-6 No.8 調整池

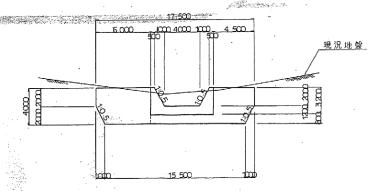
## 側 面 図 S=1/200



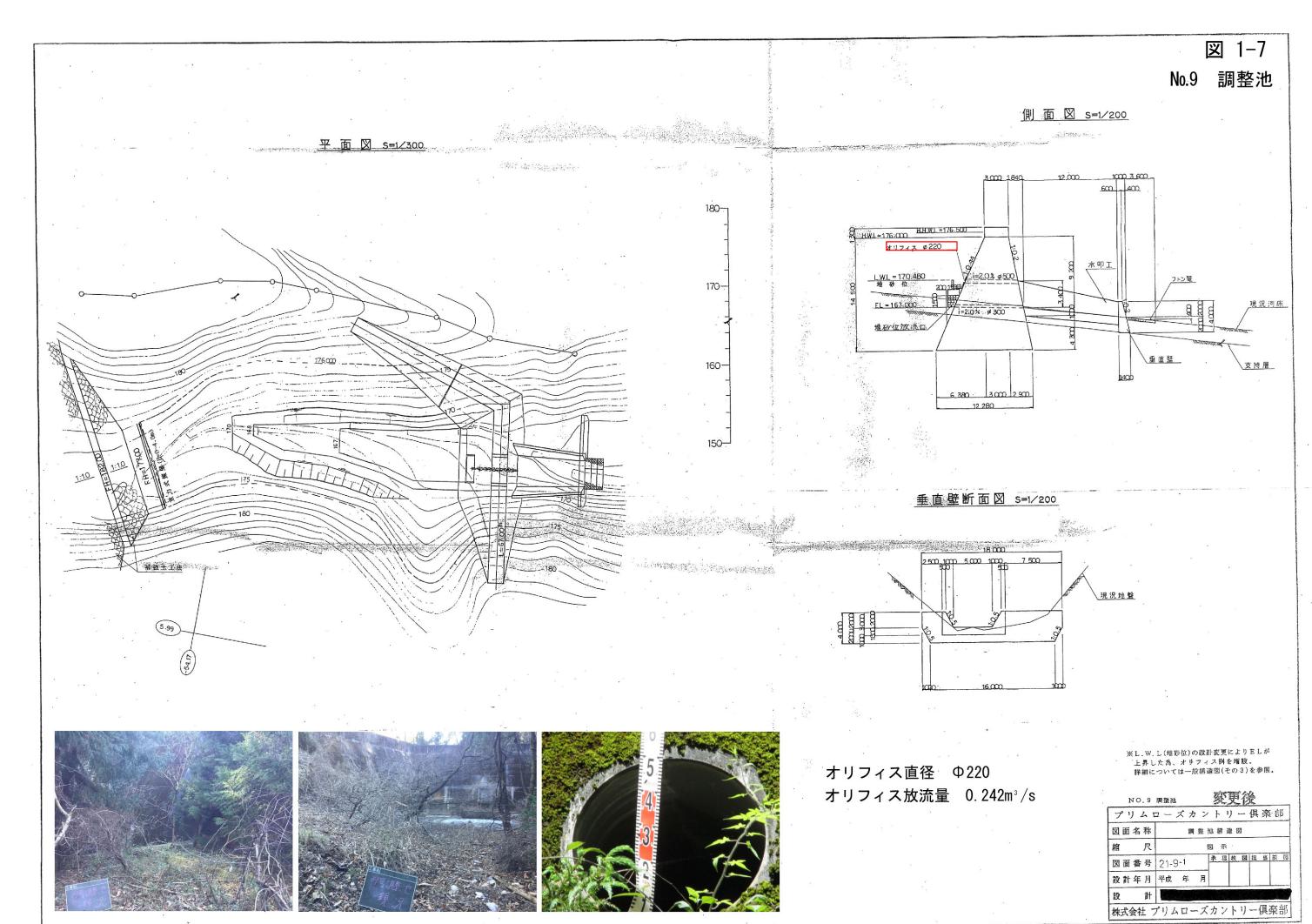
平面図 s=1/300



# 垂直壁断面図 s=1/200



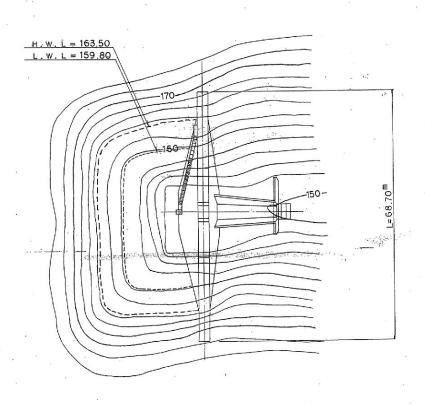
オリフィス直径 Φ210 オリフィス放流量 0.244m³/s ※L.W.L(堆砂位)の設計変更によりELが 上昇した為、オリフィス桝を増設。 詳細については一般構造図(その3)を参照。

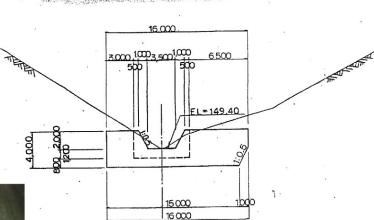


# No.14 調整池

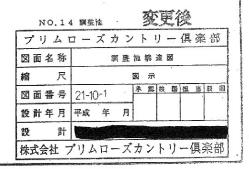
# (A) DE S S= 1/200

# 平 面 図 S=1/500

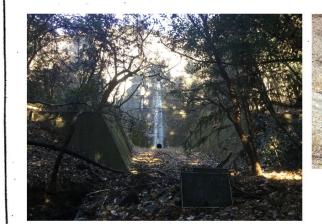


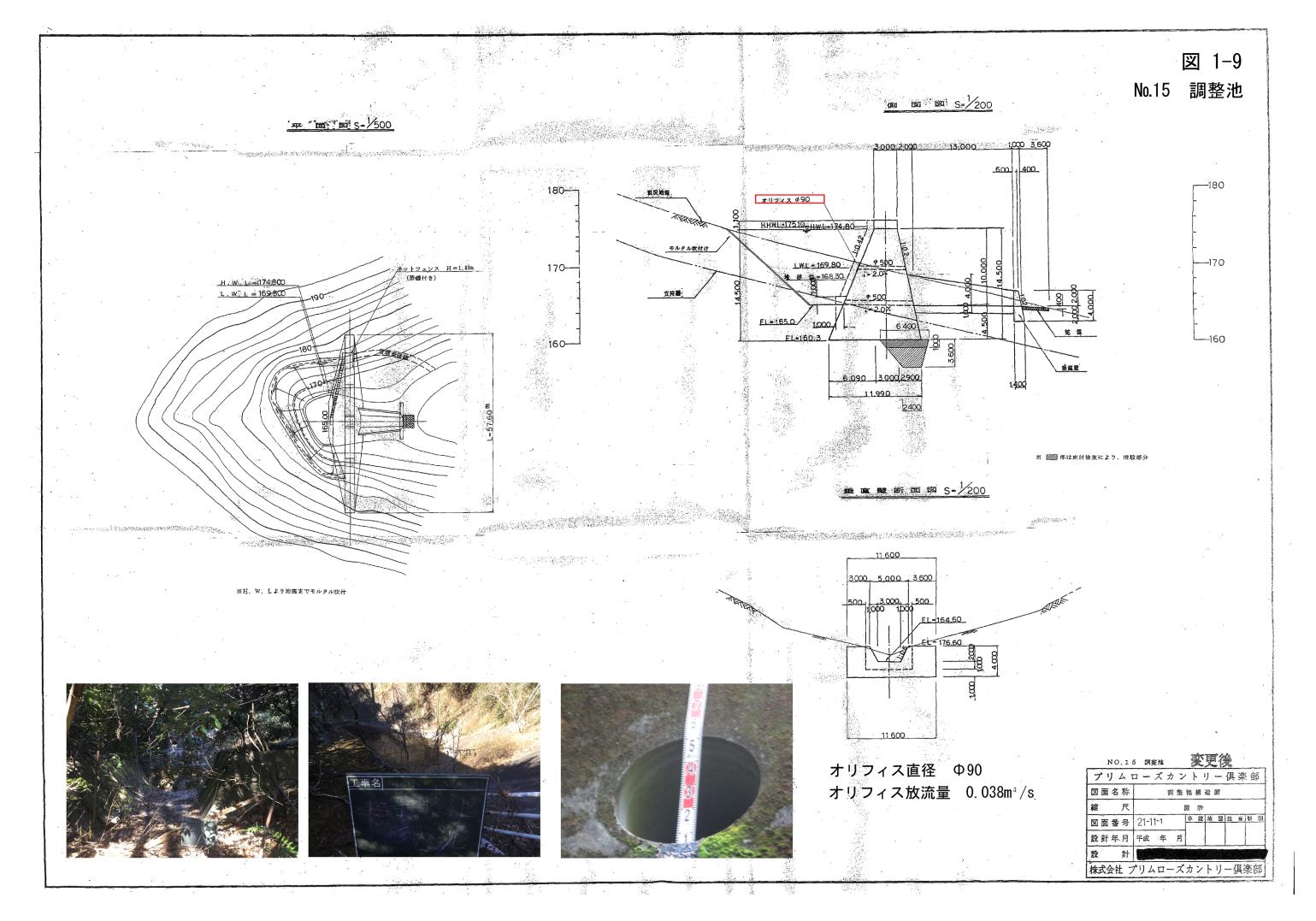


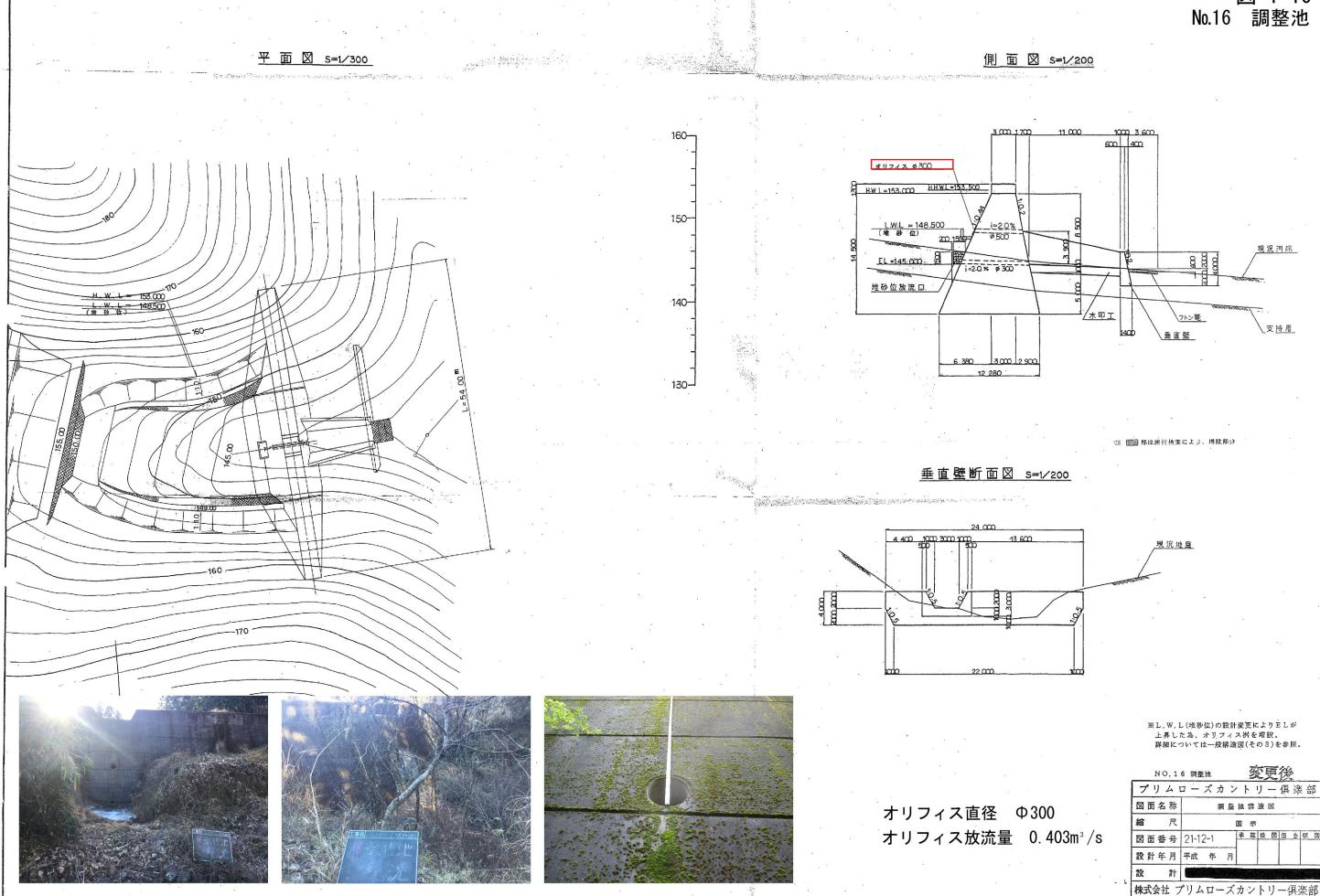
オリフィス直径 Φ160 オリフィス放流量 0.102m³/s



※ 2222 部は床付検査により、増設部分







# 2. 集水桝の構造、配置について 集水桝の構造、配置を提出すること。

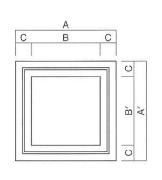
集水桝は二次製品を使用し排水管の曲がりがある箇所や横排水管と縦排水管の交差部分に設置します。集水面積の大きい場所は流量も多いため横排水管も太いものを使用しますので大きい排水管に合わせた集水桝を使用し小段など集水面積が小さい場所では排水管も細くなりますのでそれに合わせた集水桝を使用します。

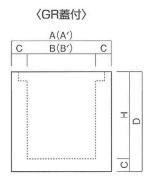
二次製品の集水桝カタログと配置は下記のとおりです。

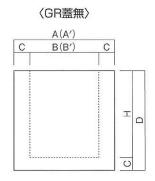
図 2-1、図 2-2 に示しました。

#### 図 2-1

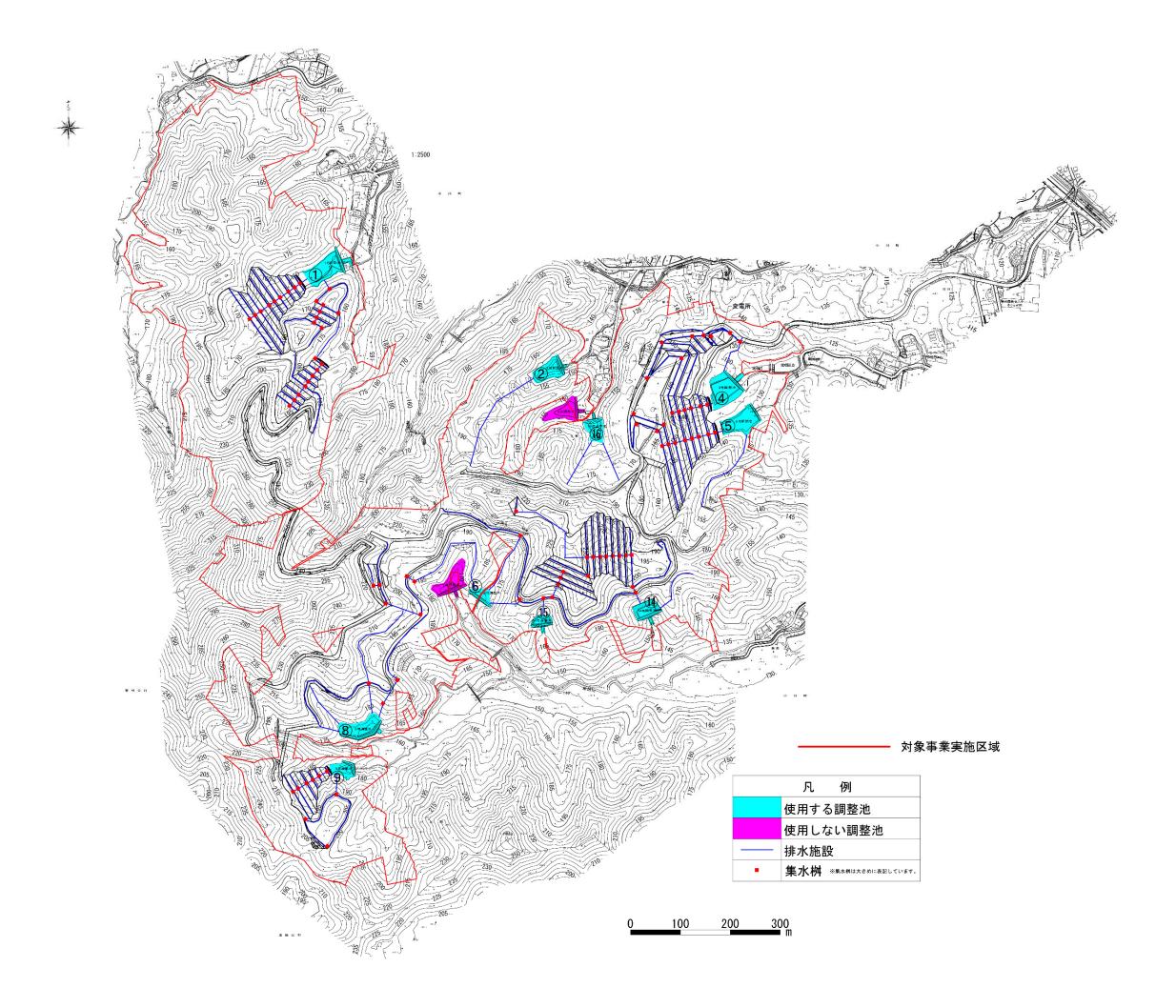
#### 1200×1200角 大型桝







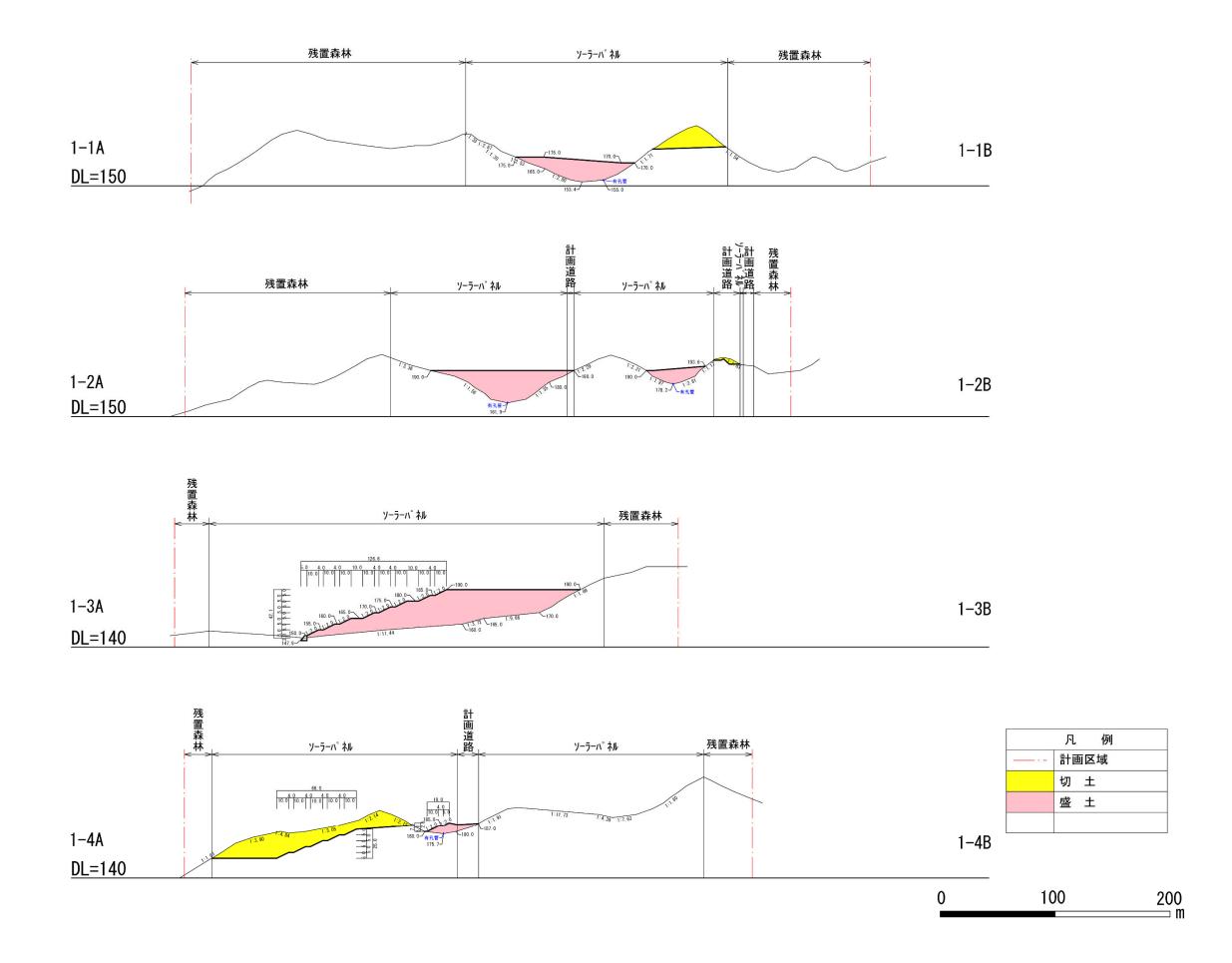
呼び名 (B×B′×H)	A	В	С	A'	B'	н	D	配筋	参考重量 (kg)	摘要
1200×1200×500	1600	1200	200	1600	1200	500	700	D10@200	2573	
1200×1200×600	1600	1200	200	1600	1200	600	800	D10@200	2842	
1200×1200×700	1600	1200	200	1600	1200	700	900	D10@200	3111	
1200×1200×800	1600	1200	200	1600	1200	800	1000	D10@200	3380	GR蓋 T-2~25
1200×1200×900	1600	1200	200	1600	1200	900	1100	D10@200	3649	2枚割 並目・細目等
1200×1200×1000	1600	1200	200	1600	1200	1000	1200	D10@200	3918	対応可能
1200×1200×1100	1600	1200	200	1600	1200	1100	1300	D10@200	4187	勾配10%まで可能
1200×1200×1200	1600	1200	200	1600	1200	1200	1400	D10@200	4456	高さ(H)はミリ 単位で対応可能
1200×1200×1300	1600	1200	200	1600	1200	1300	1500	D10@200	4725	分割可能
1200×1200×1400	1600	1200	200	1600	1200	1400	1600	D10@200	4994	
1200×1200×1500	1600	1200	200	1600	1200	1500	1700	D10@200	5263	
1200×1200×1600	1600	1200	200	1600	1200	1600	1800	D10@200	5532	

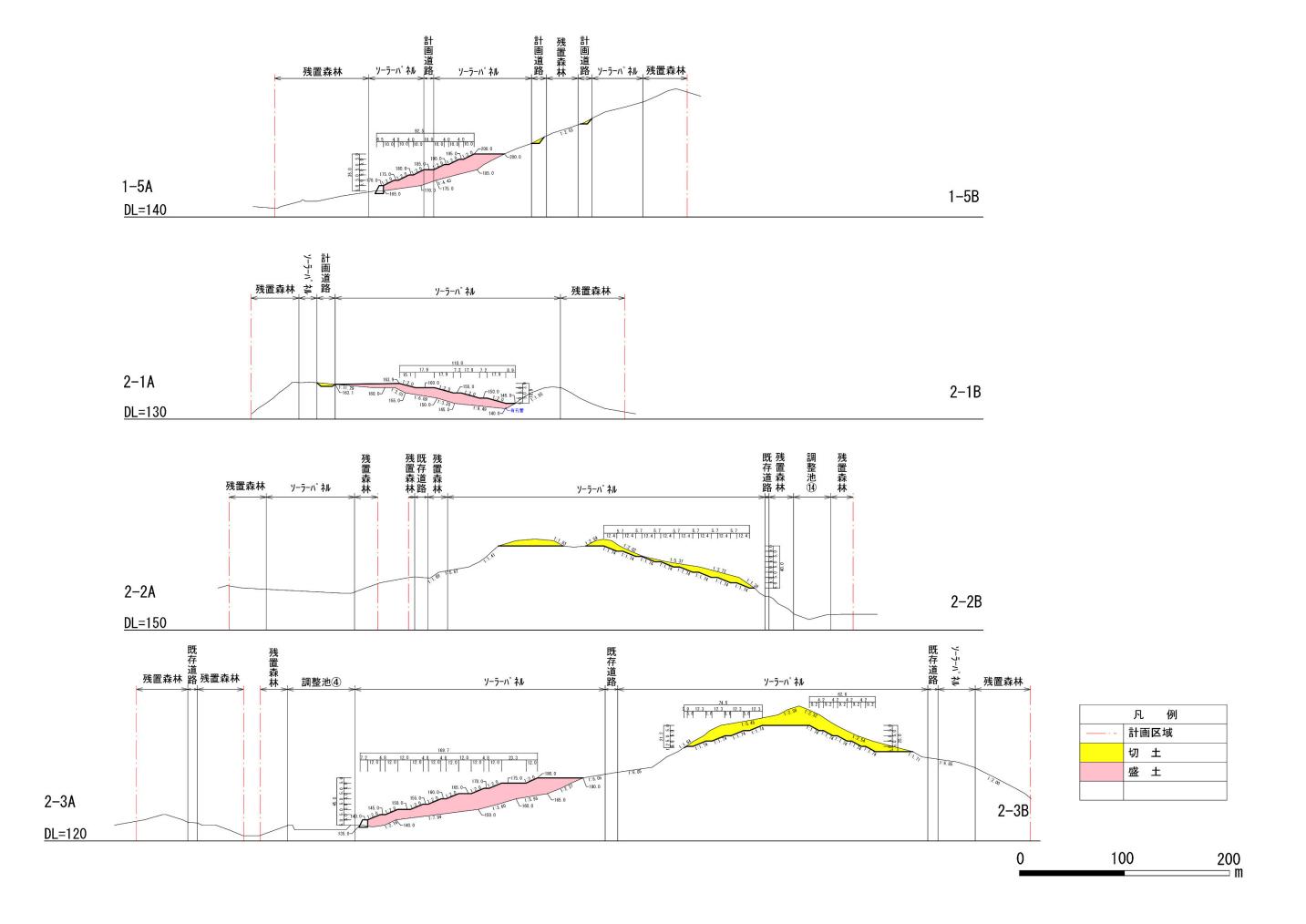


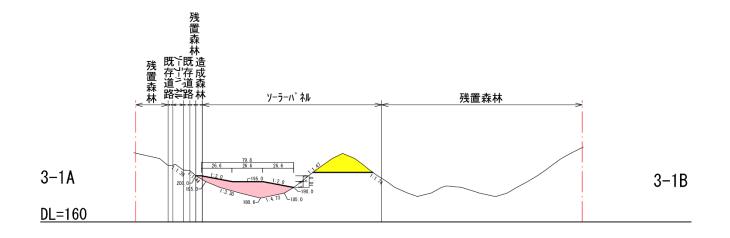
3. 小段の幅、盛勾配、地山の GL などについて 小段の幅、盛勾配、地山の GL などがわかるような図面を提示すること。

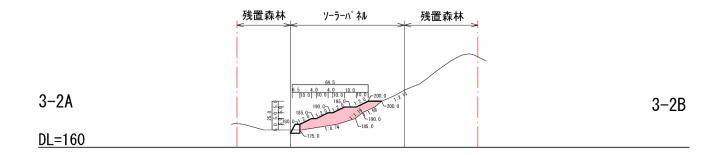
埼玉県林地開発許可事務取扱要領の基準では、勾配は1:1.8~1:2.0、小段については、5.0m 毎に 1.0m以上設置する基準になっています。計画は、勾配 1:2.0、排水施設及び重機通路と して小段幅 4.0m以上の計画になっています。

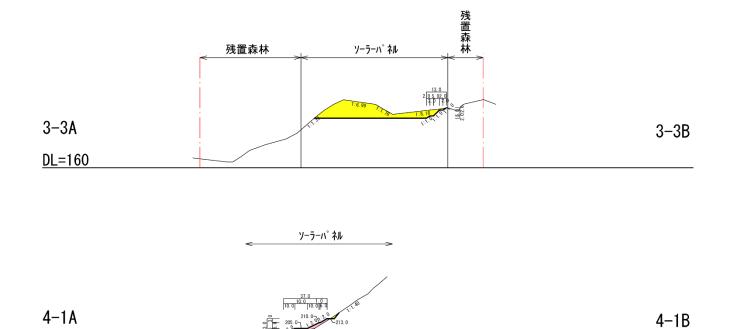
図 3-1~図 3-3 として、図面を次頁以降に示しました。











凡		例	
 計画	区	域	
切	±		
盛	±		

0	100	200
		m

4-1B

<u>DL=180</u>

# 4. 現地での締固め密度管理について 現地での締固め密度管理はどうするのか。

基準試験としては、ポータブルコーン指数試験を一層厚さ30cm毎に行います。また、締固め 用重機にタコメーターを利用して移動時間を記録します。雨天は作業を中止します。

締固めの管理については、ポータブルコーン貫入試験方法によりコーン指数の測定を行いま す。コーン指数をN値に換算することで、締固めの管理を行います。

コーン指数から一軸圧縮強度への換算 qu=qc/5

一軸圧縮強度からN値への換算 N = (qu-40)/5 ※参考 qu=40+5N (大崎式)

qc:コーン指数qu:一軸圧縮強度N:N値

コンシステンシー,N値および一軸圧縮強さの関係(Terzaghi and Peck<sup>1)</sup>)

コンシステンシー	非常に軟らかい 軟らかい 中位の		中位の	硬い .	非常に硬い	固結した	
<i>N</i> 値	2以下	2~4	4~8	8~15	15~30	30以上	
$q_u$ (kN/m²) $q_u$ {kgf/cm²}	25以下 {0.25以下}	25~50 {0.25~0.50}	50~100 {0.5~1.0}	100~200 {1.0~2.0}	200~400 {2.0~4.0}	400以上 {4.0以上}	

地盤工学会 <地盤調査法>より

#### 5. 緑化計画等について

対象事業実施区域内で発生した土を撒くことで、緑化を行う計画となっているが、緑化計画の具体的な方法を明確に示してほしい。法面などの雨水による表面流出を防ぎながら、緑化のための土を撒く方法について、検討すべきである。また、コナラ林など林地の土からは、先駆的な樹種の発芽が多くなるとみられ、太陽光パネルの設置部分には不向きと思われるが、そのような配慮も計画に盛り込むべき。計画について、次回までに補足説明を作成すること。

表土の撒きだしは、林地の土を用いるとアカメガシワ、カラスザンショウなどによる樹林化が進む。事前実験等を行い、確認しながら計画を実施する必要がある。

緑化は、改変区域全体に行う計画です。現在の表土を採取し、それを撒くことで、表土に含まれる植物の種子・根などから植物が生育することによる緑化を計画しています。

降雨時の土砂の流出を避けるため、造成盛り土箇所は、転圧を行い、撒いた表土に関しても、 同様の扱いを行う計画です。

過去の造成盛り土箇所は通行のために転圧は行われていると考えられます。そのような場所においても、現在、先駆的木本群落及び草地になっており、土砂流出防止の転圧を行っても同様の状態になると考えています。事業者の構成社員が管理する別の太陽光発電においては、実際に植物の種子・根などが含まれた土壌の散布・転圧など同様の造成を行っておりますが、添付写真のとおり、植物の良好な生育状況が確認できます。

パネル配置場所に樹木は適さないので、樹木が生育した場合、日常点検時に引き抜いて樹林化 防止作業を行います。生育状況を確認して、緑化状況が悪ければ、春先などに在来種の種子の吹 付も検討し、管理を行います。



(写真) 事業者の構成社員が管理する別の太陽光発電における緑化状況

#### 6. 関連設備(送電施設)について

関連設備は、東京電力により実施されるとあるが、本事業に含まれるものか。どのような鉄 塔を建設するのかを説明があったほうが親切ではないか。

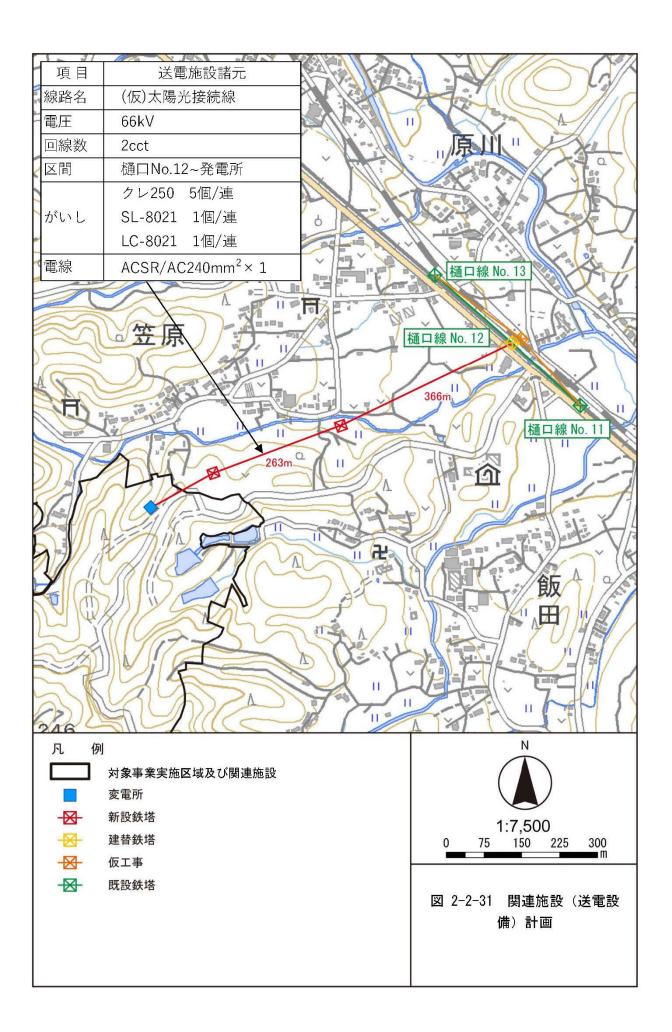
可能であれば鉄塔の外形・寸法(類似のものでも結構ですが)がわかれば表示した方がよい と思います。

建設主体は東京電力ですが、関連設備は本事業のために建設されるものであるため、ご指摘に 従い、現段階で計画されている送電設備の諸元などについて整理しました。

諸元を記載した準備書の図は、次頁に示しました。諸元は、東京電力パワーグリッド株式会社 にヒアリングを行った、現段階での計画内容となります。

修正した図は、評価書に追記するように致します。

現状では、まだ詳細が決定されていない段階でありますが、鉄塔の規模は高さが約 25m、幅が 約 8m のものを想定しております。



#### 7. 気温の示し方について

表 3-1-1-3 の気温ですが気象庁のホームページと書き方が異なるのではないでしょうか。ここに記載されているのは「気温」ではなく日平均気温、日最高気温、日最低気温の年間平均ではないでしょうか。気象庁ホームページには最高、最低気温は年間の最高、最低気温が記載されていると思います。

ご指摘の表 3-1-1-3 の気温の表記につきましては、気象庁のホームページに一致させ、気温( $\mathbb{C}$ ) の下に「平均」を記載した欄を追記し、その下の「平均」、「最高」、「最低」との現表記を、それぞれ「日平均」、「日最高」、「日最低」と修正致します(下表を参考)。

表 3-1-1-3 寄居地域気象観測所における気象の状況(平成 23 年~令和 2 年)

	降水量(mm)			気温(℃)			
年	年小里(IIIII)			日照時間(h)			
	合計	日最大	日平均	日最高	日最低		
平成 23 年	1595. 0	150.5	14.0	19.9	9. 0	2168.4	
平成 24 年	1218. 5	141. 5	13. 7	19.6	8.6	2182.8	
平成 25 年	1105. 0	96. 5	14.3	20.4	9.0	2275.6	
平成 26 年	1398. 5	173. 5	13. 9	19.7	8.6	2272.5	
平成 27 年	1226. 0	142. 5	14.6	20.1	9. 7	2074. 0	
平成 28 年	1192.5	163. 5	14.6	20. 2	9.6	1999. 2	
平成 29 年	1238. 0	118.5	13. 9	19.8	8.6	2208. 2	
平成 30 年	1082. 5	101. 5	15. 0	21.0	9. 6	2283. 4	
令和元年	1649. 0	471.0	14. 7	20.5	9. 5	2097. 7	
令和2年	1360.0	84. 5	14.8	20.6	9. 7	2066. 2	

出典:「過去の気象データ検索」(気象庁 HP)

#### 8. 対象事業実施区域周辺の住居について

対象事業実施区域周辺の住居の様子を確認するためには、図 3-2-2-2 では粗すぎるため、実施区域と直近の住居の位置関係がわかる図面を追記すること。

これらのうち特に太陽光パネルやパワーコンディショナーに近い住居については拡大してそ の距離を示したほうがよいと思います。

ご指摘に従い、準備書 p211「(2)対象事業実施区域及びその周辺の住居等」において、図 3-2-2-2 の引用ではなく、新たに住宅等建築物の距離別の分布を示した図 3-2-5-2 を追記し、距離で区分した範囲に存在する住宅等建築物の戸数を示した表 3-2-5-2 を追記しました。

ここで、住宅等建築物の戸数は、国土地理院の基盤情報図の建築物の戸数として計測しております。

準備書の修正箇所は、次頁及び次々ページに示しました。

また、太陽光パネルが設置される改変区域やパワーコンディショナー等から住居までの距離について、騒音発生源となるパワーコンディショナーや変圧器に近い住居までの距離は図 8-1 及び図 8-2 に示しました。

### 準備書 p211 の修正

#### (2) 対象事業実施区域及びその周辺の住居等

対象事業実施区域及びその周辺の地域における、距離別の住宅等建築物の戸数を表 3-2-5-2 に、分布状況を図 3-2-5-2 に示した。

ここで、図及び表に示した住宅等建築物の戸数は、国土地理院の基盤情報図の建築物が ほぼ住宅を示しているものとして建築物の数を計測して求めた。

住宅等建築物は、北東側を中心に、対象事業実施区域からの距離 0.5km 以内に 160 戸、0.5km~1.0km の範囲内では 1,148 戸、1.0km~1.5km の範囲内では 2,854 戸の建築物が分布していることが確認された。

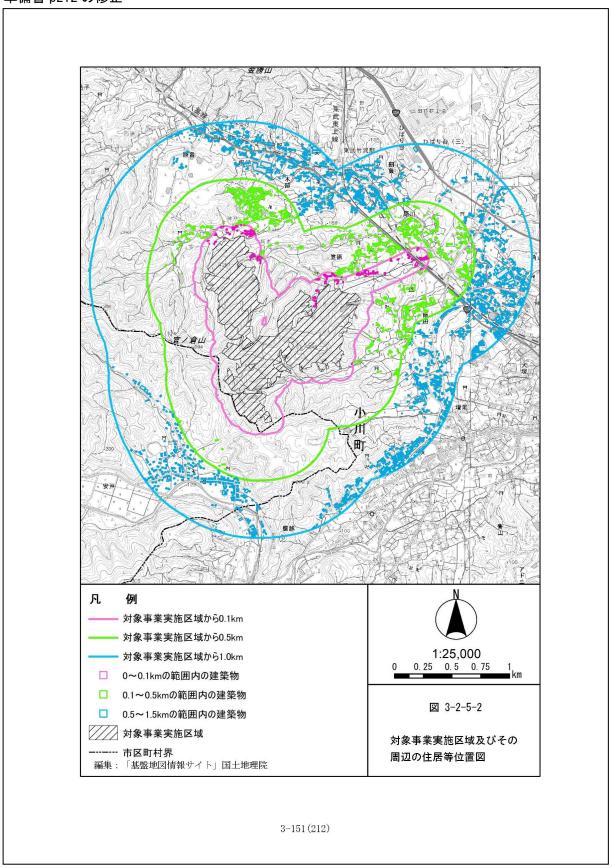
表 3-2-5-2 対象事業実施区域からの距離別の住宅等建築物戸数

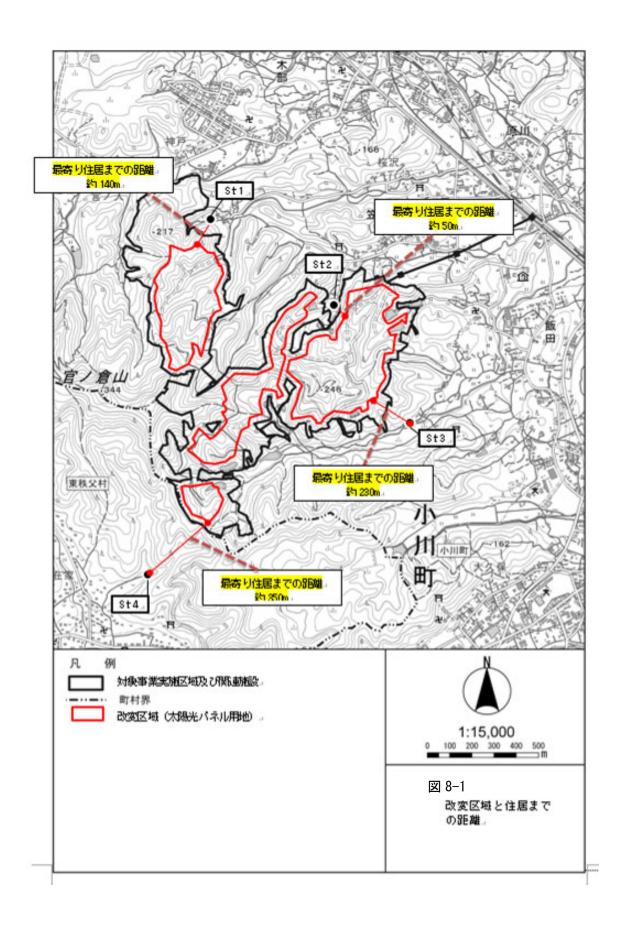
範 囲 (対象事業実施区域からの距離)	住宅等建築物の戸数 (戸)
0.0km-0.5km	160
0.5km-1.0km	1, 148
1.0km-1.5km	2, 854

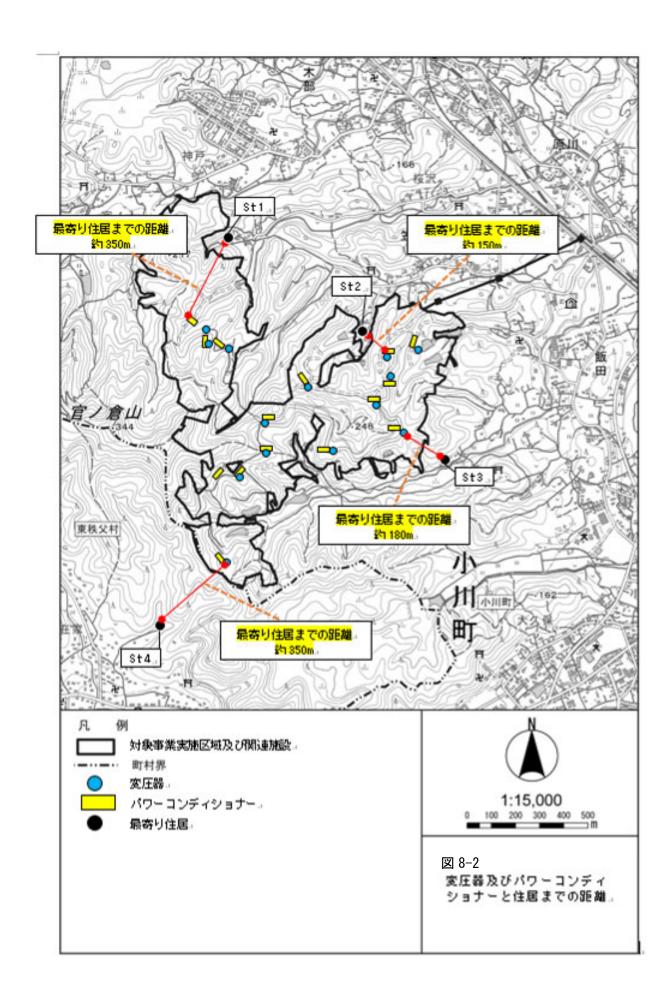
追加箇所

3-150 (211)

### 準備書 p212 の修正





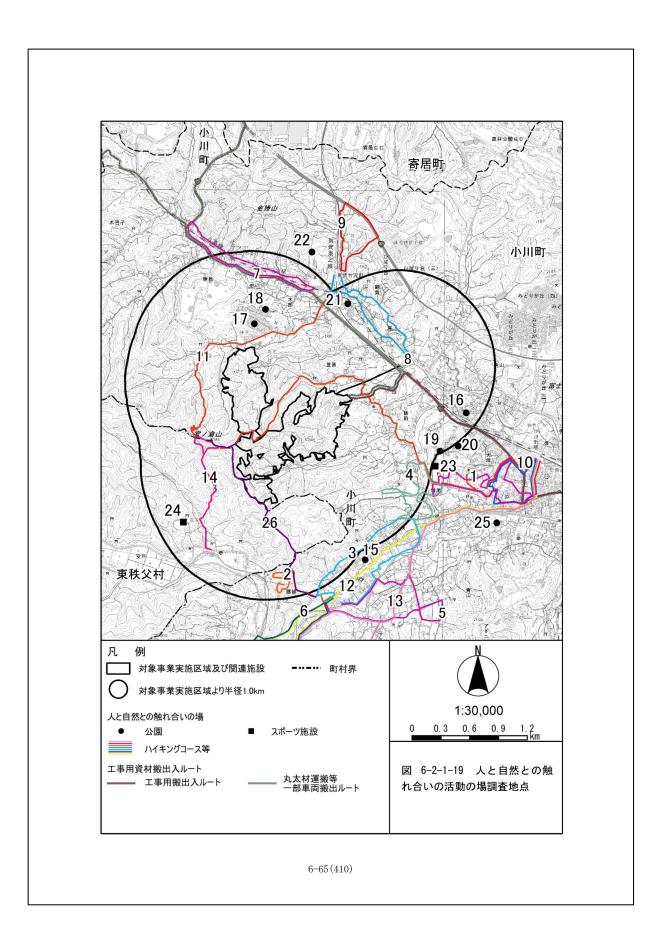


## 9. 工事用搬入ルートについて

2 章において工事用搬入ルートは、南側からのみとされているが、図 6-2-1-19 には、北側に搬入ルートが記載されており矛盾している。

図 6-2-1-19 の記載に誤りがありましたので、下記の通り準備書の記載内容を修正しました。評価書において反映いたします。

次頁の図に示すう通り、北側からの搬入ルートがないことが明確となるよう、南側からのルートの凡例を「工事用搬出入ルート」とし、北側に伸びるルートの凡例を「丸太材運搬等一部車両搬出ルート」としました。また、北側のルートの色が、一部南側と同じ色となっていた点も修正しました。



# 10. 日射量と放射収支量の単位について 表 8-1-1-1 の日射量と放射収支量の単位を揃えること。

表 8-1-1-1 の日射量と放射収支量の単位を kW/m2 に揃えて記載するよう、下記の通り、修正し ました。

#### d) 調査結果

風向・風速、日射量、放射収支量の調査結果は表 8-1-1-1 に、季節別の風配図は図 8-1-1-2に示すとおりである。

最多風向は、通年の全日で西北西の風が卓越しており、平均風速は 1.1m/秒であった。

表 8-1-1-1 :	地上気象の調査結果	(全日)	修正笛所
-------------	-----------	------	------

					CARL RESIDENCE A			
調査期間		最多風向 (方位)			平均風速 (m/秒)		日射量 (kW/m²)	放射 収支量
知间	全日	昼間	夜間	全日	昼間	夜間	(KW/III)	$(kW/m^2)$
秋季	WNW	NNW	WNW	1.0	1.2	0. 9	0.11	0.03
冬季	WNW	N	WNW	1.2	1.5	1. 0	0.11	0.02
春季	W	ESE	W	1.5	1.8	1. 0	0, 22	0.09
夏季	Е	Е	W	0.7	0.7	0. 6	0. 12	0.06
通年	WNW	NNW	WNW	1.1	1.3	0. 9	0.14	0.05

注1)風向の表記は以下に示すとおりである。

N:北 NNE:北北東 NE:北東 ENE:東北東 E:東 ESE:東南東 SE:南東 SSE:南南東 S:南南東 S:南南東 S:南 SSW:南南西 SW:南西 WSW:西南西 W:西 WNW:西北西 NW:北西 NNW:北北西

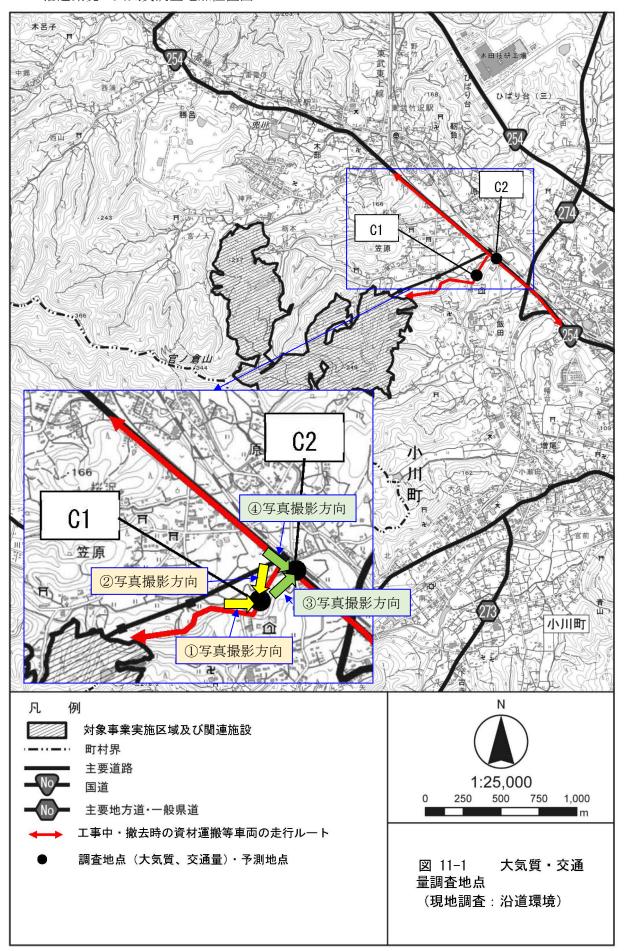
注2) 昼間及び夜間の時間帯は、各季節のにおける日の入及び日の出の時間(国立天文台の埼玉県)により設定した。

11. 大気質調査の調査時の写真について 大気質調査の調査時の写真を、補足資料として提示すること。

大気質調査の調査時の写真を提示します。

各調査地点の位置図を掲載した後に、該当する写真を示しました。

### 1. 沿道環境 大気質調査地点位置図



### 1-1. C1 調査地点

## ①写真



### ②写真



### 1-2. C2 調査地点

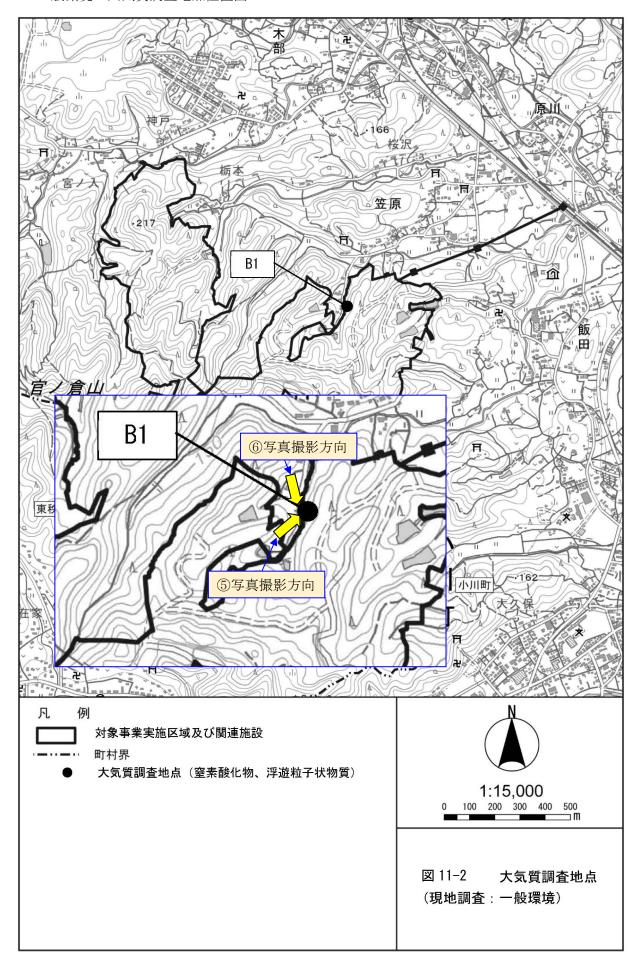
### ③写真



## ④写真



## 2. 一般環境 大気質調査地点位置図



## 2-1. B1 調査地点

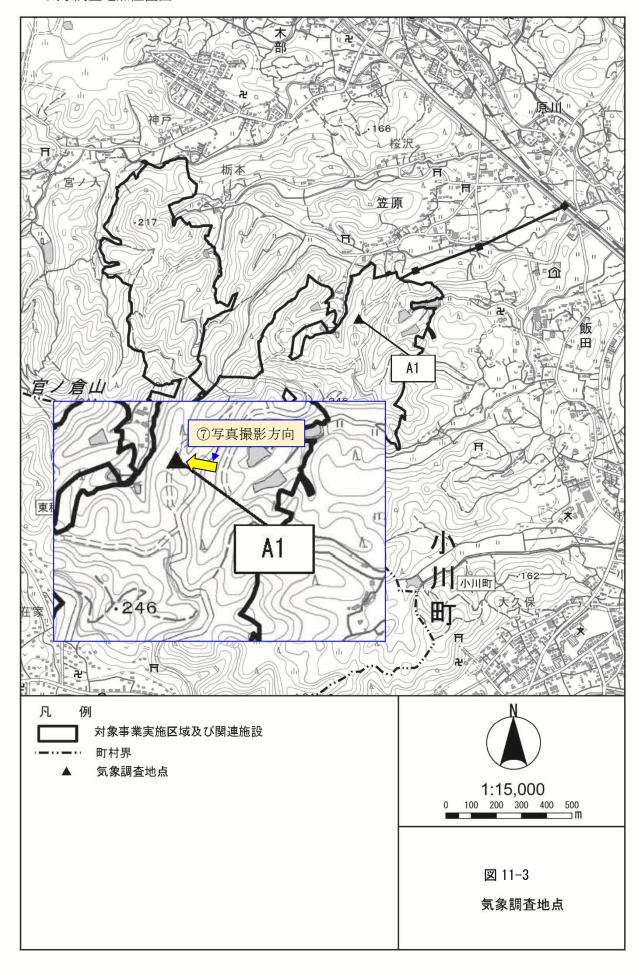
## ⑤写真



## ⑥写真



## 3. 気象調査地点位置図



3-1. A1 調査地点



## 12. 大気環境の予測地点について

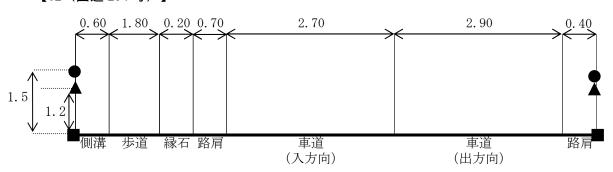
大気環境に関し、予測地点の位置を p427 に示した道路横断図を用いて表示すべきである。

工事用資材等の搬出入車両の影響による大気環境の予測地点を図 12 に示します。 評価書のときに各項目(大気質、騒音、振動)の予測地点として追加致します。

# 【C1 (計画地と国道 254 号を結ぶ区間)】



## 【C2(国道 254号)】



単位:m

●:大気質予測地点(地上 1.5m) ▲:騒音予測地点(地上 1.2m) ■:振動予測地点(地表面)

図 12 予測地点

### 13. 建設機械の影響について

汚染物質排出量が最大期間となる建設機械の影響を予測しているが、工事期間によっては、 より住居に近い場所での施工もある。そのような場合の影響はどの程度となるのかを確認する 必要がある。

予測地点ごとに影響が最大となる場合を、下表のとおり算出しました。

なお、各予測地点の排出量は安全側として汚染物質の排出量が最多い8~19カ月目の1年間の 排出量を基としました。

将来予測濃度は二酸化窒素、浮遊粒子状物質ともに全ての地点で環境基準を満たしていました。

## 【二酸化窒素の予測結果】

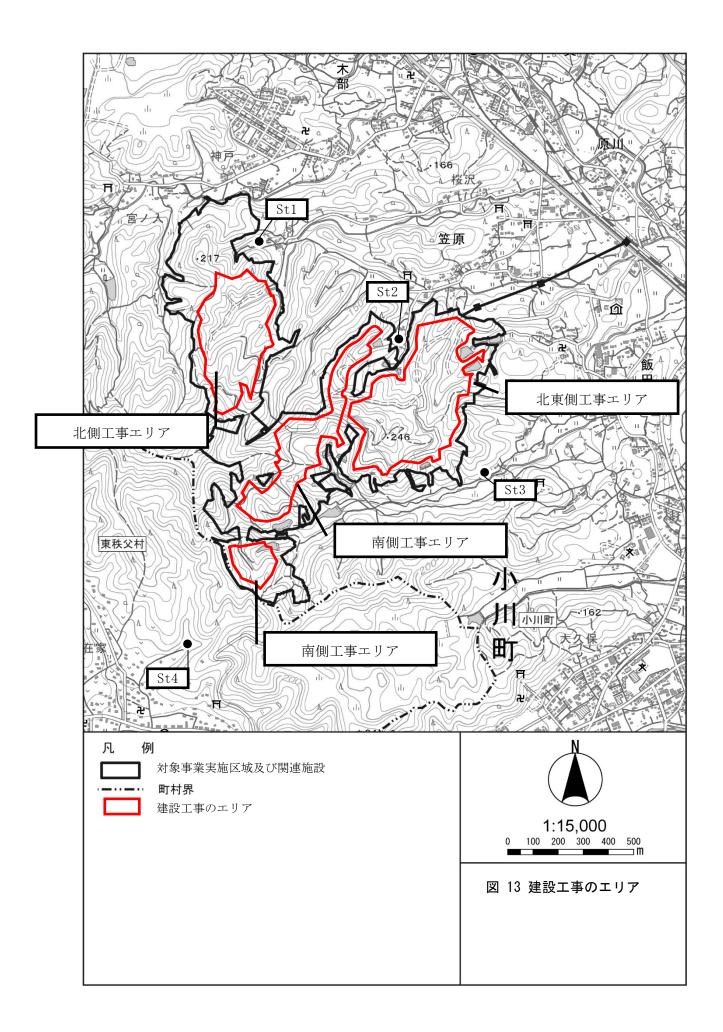
単位:ppm

予測		年平均値		日平均値の 年間98%値	工事箇所
地点	バックグラウンド 濃度	寄与濃度	将来 予測濃度	将来 予測濃度	(図13を参照)
St1	0.003	0.0018	0.0048	0.014	北側工事エリア
St2	0.003	0. 0065	0. 0095	0.020	北東側工事エリア
St3	0.003	0. 0038	0. 0068	0.017	北東側工事エリア
St4	0.003	0.0003	0. 0033	0.013	南側工事エリア

## 【浮遊粒子状物質の予測結果】

単位:mg/m³

予測		年平均値		日平均値の 年間2%除外値	工事箇所
地点	バックグラウンド 濃度	寄与濃度	将来 予測濃度	将来 予測濃度	(図 5 を参照)
St1	0.012	0.00020	0. 01220	0.033	北側工事エリア
St2	0.012	0.00090	0. 01290	0. 035	北東側工事エリア
St3	0.012	0.00040	0. 01240	0. 034	北東側工事エリア
St4	0.012	0. 00004	0. 01204	0. 033	南側工事エリア



# 14. 工事用車両の走行時の等価騒音レベルついて 表 8-1-1-50 に LAEQ, HC (工事用車両の走行時の等価騒音レベル) を記載すること。

LAEQ, HC(工事用車両の走行時の等価騒音レベル)は下表の計算値の欄となります。 評価書において追加致します。

表 8-1-1-50 (1) 道路交通騒音レベル (L<sub>Aeq</sub>)の予測結果 (建設工事)

単位:dB

									T 15% . GD
字测 批 占	時間		計算 等価騒音レ	草値 ベル(L <sub>Aeq</sub> )	等価	騒音レベル(	L <sub>Aeq</sub> )	環境	環境基準との 適合
予測地点 (道路境界)	区分	方向			現況実測値 騒音レベル ③		将来 騒音レベル ③+④	基準	満足する:○ 満足しない:×
C1	日田	入方向	48	55	48	+7	55	55	0
CI	昼間	出方向**	48	55	48	+7	55	ออ	0
CO	T III	入方向	65	66	63	+1	64	70	0
C2	昼間	出方向**	68	69	66	0	66	10	0

注 1) 方向の「※」は、現地調査地点側の道路交通騒音及び現況の自動車交通量の調査結果に基づき、ASJ RTN-model 2018 を用いて推定した値である。

## 表 8-1-1-50 (2) 道路交通騒音レベル (L<sub>Aeq</sub>)の予測結果 (解体工事)

単位:dB

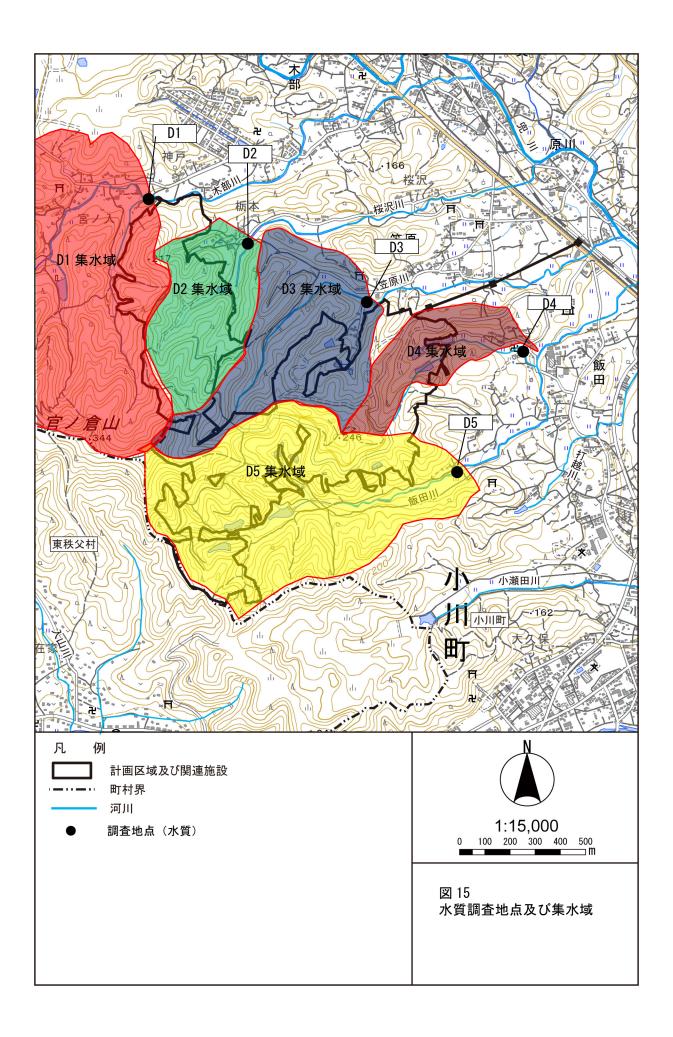
									<u> </u>
予測地点	時間		計算 等価騒音レ	草値 ベル(L <sub>Aeq</sub> )	等価	騒音レベル(	$L_{ m Aeq})$	围钵	環境基準との 適合
(道路境界)	区分	方向			現況実測値 騒音レベル ③		将来 騒音レベル ③+④	環境 基準	満足する:○ 満足しない:×
C1		入方向	48	49	48	+1	49		0
C1	昼間	出方向**	48	49	48	+1	49	55	0
C2	T III	入方向	65	65	63	0	63	70	0
	昼間	出方向**	68	68	66	0	66	70	0

注1)方向の「※」は、現地調査地点側の道路交通騒音及び現況の自動車交通量の調査結果に基づき、ASJ RTN-model 2018を用いて推定した値である。

## 15. 集水域について

図 8-1-2-1 の水質調査地点が、対象事業実施区域を含む集水域からの水を調査していることが確認できるよう、各集水域を色分けするなどして明記すること。

図15に水質調査地点と、各地点の集水域を明示しました。



16. 沈降試験結果の図修正について 沈降試験結果の図(図 8-1-2-8)の両軸を対数表示とし、回帰式を追記すること。

ご指摘に従い、図を修正しました。

次頁以降の記載の内容で、評価書において修正致します。

### e) 調査結果

沈降試験の結果は、表 8-1-2-13 及び図 8-1-2-8 に示すとおりである。地点 E1、地点 E2 とも、濃度低下の早さはほぼ等しく、試験開始時に 2000mg/L であった濃度が、 200mg/L (10.0%) まで低下するのに要する時間は 15 分、60mg/L(3.0%) 程度まで低下するのに要する時間は 2 時間であった。

表 8-1-2-13(1) 沈降試験調査結果(地点 E1)

分析項目	浮遊物質量 [SS]	SS 残留率	水温
沈降時間(分)	(mg/L)	(%)	$(\mathcal{C})$
0	2000	100.0	20
1	520	26. 0	20
2	470	23, 5	20
5	360	18. 0	20
15	200	10. 0	20
30	150	7.5	20
60	90	4.5	20
120	60	3.0	20
240	33	1.6	20
480	17	0.8	20
1440	13	0.6	20
2880	6	0.3	20

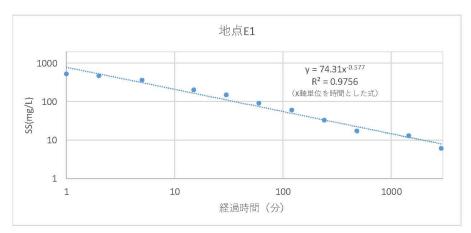


図 8-1-2-8(1) 沈降試験結果(地点E1)

8-1-2-11 (574)

表 8-1-2-13 (2) 沈降試験調査結果 (地点 E2)

分析項目	浮遊物質量 [SS]	SS 残留率	水温
沈降時間(分)	(mg/L)	(%)	$(^{\circ}\!\mathbb{C})$
0	2000	100.0	20
1	550	27. 5	20
2	370	18. 5	20
5	280	14. 0	20
15	200	10. 0	20
30	130	6.5	20
60	120	6.0	20
120	56	2.8	20
240	29	1.4	20
480	19	1.0	20
1440	15	0.8	20
2880	8	0.4	20

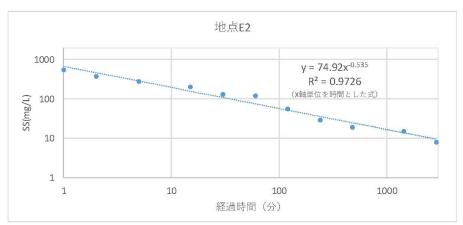


図 8-1-2-8 (2) 沈降試験結果(地点 E2)

8-1-2-12 (575)

## 17. 反射光について

図 8-1-3-30 の示す意味(年間を通じて太陽光の入射する可能性がある範囲を示しており、その範囲内の光(太陽光)が入射した際に、住居に反射光が当たり得るパネルを示したものであること)を丁寧に説明すること。

ご指摘に従い、図の説明を加え、修正しました。 次頁の記載の内容で、評価書において修正致します。 修正箇所は、着色部分となります。

#### (エ) 予測結果

反射光・入射光の計算対象地点における予測結果を図 8-1-3-30 に示した。 各計算対象地点を通り対象住居に反射する入射光の高度及び方向を、春分、夏至、秋 分、冬至の太陽光の高度・方位の時間推移とともに記載した。

太陽は、夏至において最も高度が高くなり、冬至では最も低くなる。よって、反射光の原因となる太陽光は、図 8-1-3-30上では、年間を通じて夏至の曲線と冬至の曲線との間の範囲内に位置し、その外側に位置することはない。

ここで、図 8-1-3-30 に記載したパネルを示した点は、住宅の位置とパネルの設置位置・パネルの設置角度から算定した、影響を及ぼす可能性のある太陽光の位置である(図 8-1-3-28 参照)。この計算された図中のパネル位置が、上記の太陽光が位置しうる範囲(夏至一冬至の軌跡に挟まれた範囲)内にあれば、住宅への反射光が到達することとなる。

このことを前提とすると、図 8-1-3-30 のパネル 2(6)-1, 2, 3 地点が、夏至・冬至の太陽の軌跡で挟まれた範囲の中央付近に存在することが確認できたことから、パネル 2(6)-1 地点に関しては、春分の前及び秋分の後の 10~11 時の間、パネル 2(6)-2 地点に関しては春分の前及び秋分の後の正午頃、パネル 2(6)-2 地点に関しては春分の前及び秋分の後の13~14 時の間に、入射した太陽光が住居に一時的に反射するものと予測した。他のパネル地点は、反射光のパネル入射角方向に太陽が位置することはないか、山際であることから無視できる低い高度であり、影響が生じる可能性は低い。

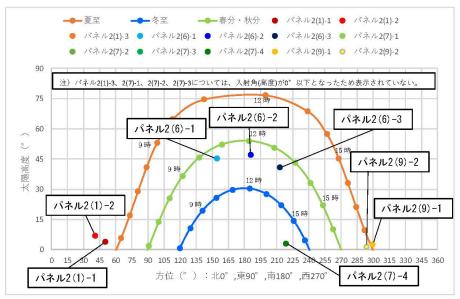


図 8-1-3-30 予測結果

#### c) 評価の結果

### (ア) 環境影響の回避・低減に係る評価

地形改変及び施設の存在に伴う反射光の影響を回避するための環境保全措置は、以下のとおりである。

・森林伐採量を最小限に抑え、残置林を確保する。

8-1-3-41 (640)

## 18. 水域の改変により水生動物に影響を及ぼす可能性について

【水域の改変について】改変区域内で両生類の卵が確認されていますが、常時水流や湧水、 湿地のような一時的な水たまりではない環境が対象事業実施区域内にあるのか、改変は行われ るのか、直接改変によってムサシノジュズカケハゼやホトケドジョウ等の水生動物に影響を及 ぼす可能性はないのか、といった点について御説明下さい。

改変区域内で両生類の卵が確認された場所の環境写真等は、図 18 に示すとおりです。確認された環境は湿り気のある環境ですが、その水域は不安定で一時的な水たまりに該当する環境であり、 改変区域内の水域環境はそのような一時的な水域であると認識しております。

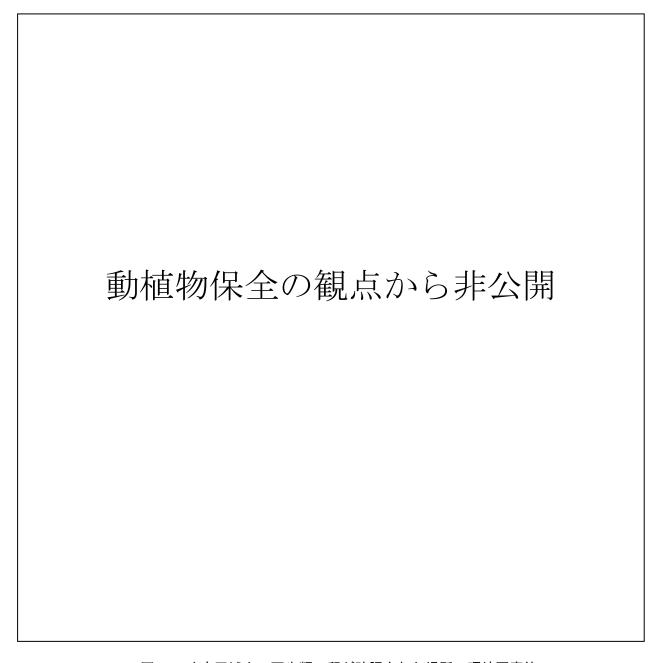


図 18 改変区域内で両生類の卵が確認された場所の環境写真等

### 19. オニシバリ、ミゾコウジュの移植先について

オニシバリ、ミゾコウジュの移植先は決まっているのか。移植に先立ち、適地を決定しておく必要がある。また、代償ミチゲーションは最後の手段であるので、回避などが出来ないかを検討する必要がある。ミゾコウジュなどは、むしろ二次的な自然環境に生育する例が多く、現地調査時に道端で確認されていることなども踏まえて、保全策を検討すると良い。

オニシバリ及びミゾコウジュの移植に際しては、移植予定箇所の環境調査等により、その適性 について確認をした上でその結果を基に計画を策定するとともに、専門家に助言・指導を受けた 上で詳細を決めることを考えております。回避策については、オニシバリについて一部の個体を 移植せずに保全することを検討しております。引き続き、改変を回避することが出来る個体がな いか、検討してまいります。

なお、オニシバリ及びミゾコウジュについて、現時点で想定している移植先予定箇所等は、図 19-1~図 19-2 に示すとおりです。

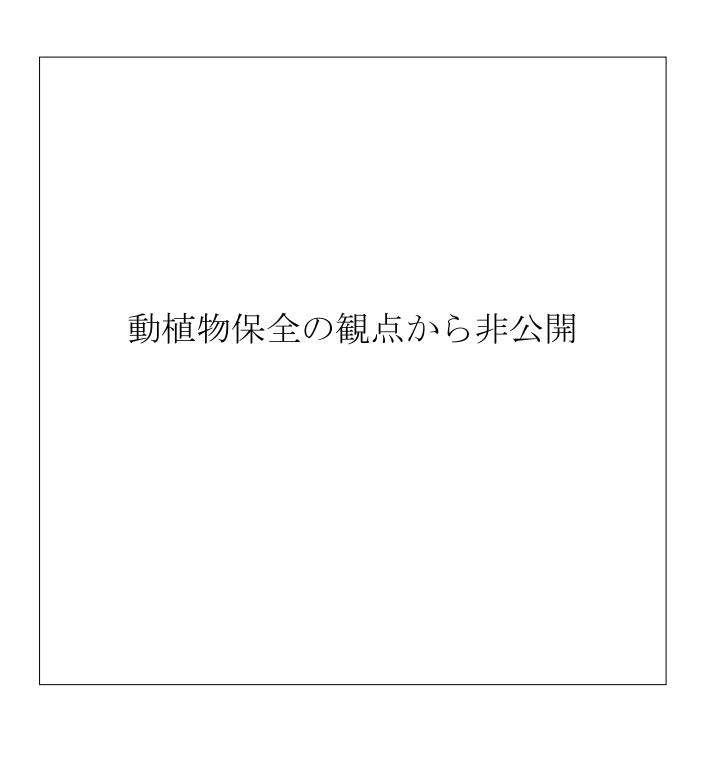


図 19-1 **オニシバリ** 想定移植箇所

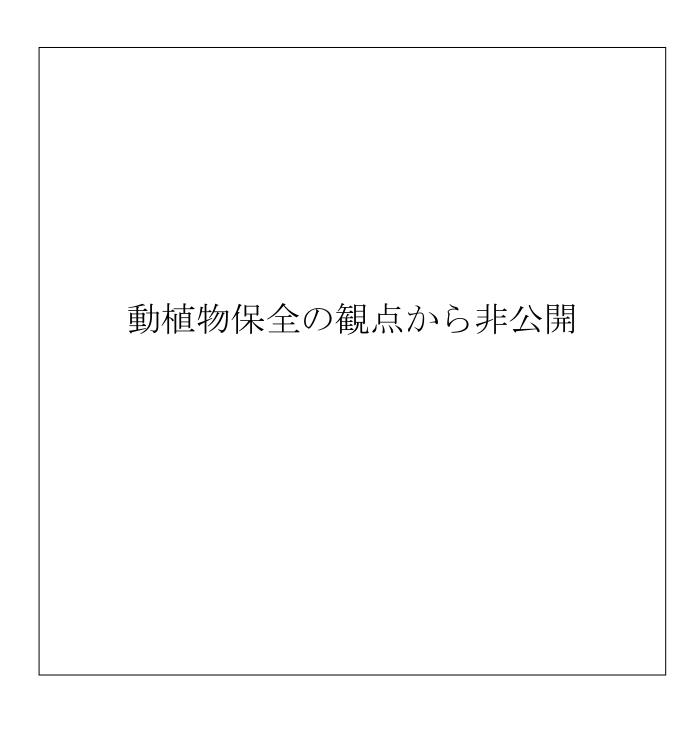


図 19-2 **ミゾコウジュ 想定移植**箇所

### 20. 森林群落(木本)の組成表の組み方について

森林群落(木本)の組成表の組み方を再整理すること。本編の群落名と、資料編の組成表の 言い回しが異なる点を一致させること。

### (群落組成表について)

群落組成表は、基本的に組成表に組みこんだ植生調査資料間の比較によって導き出された 区分種を示すもので、他の資料で標徴種・区分種とされているからといって、それらを当該の 組成表に示す必要はありません。この調査地域の中での他の群落との違いを示すことが重要で す。

群落組成表によって示される区分種は、比較した植生の種類によって異なってくるのは当然で、例えばコナラ林とケヤキ林を比較した場合の区分種とアカマツ林とのそれとではことなります。また、地域が異なれば植生の母体となるフロラも異なりますので、同じような比較をしても結果は異なってきます。植生便覧などに書かれている標徴種・区分種は、コナラ林群集であればコナラ林だけを比較した結果のものですので、今回のように一部の地域の複数の群落を比較した結果とは異なってくるわけです。

従いまして、お示しいただいた組成表の「クヌギーコナラ群集標徴種」等の表記は削除して、 それぞれの種は、ブナクラスの種や随伴種等に移動させてください。コナラ群落の区分種には コナラのほかに、ヤマザクラやクヌギ、リョウブなども挙げて良いと思います。同様にスダジ イ群落の区分種には、モチノキ、アラカシ、サカキを加えて良いと思います。「ムクノキーエ ノキ群集標徴種」と「エノキームクノキ群団標徴種」に関しても同様です。ケヤキ群落の区分 種としてケヤキのみがあげられていますが、ムクノキとエノキもケヤキ群落の明確な区分種と なりますし、さらにジャノヒゲやイヌガヤも区分種に加えても良いと思います。

要するに、同一の組成表の中で、どれくらい明確に区分できているかを示すことが重要となります。区分種は優占種だけをあげるのではなく、できるだけ多くの種を見つけ出すことが肝要です。

修正した群落組成票は、表1に示すとおりです。

左側の出現種には、現地で確認・分類した群落毎にその区分種をまとめて記載しました。また、 その下段は、「改訂新版日本植生便覧」(平成6年、至文堂)等を参考に、確認された群落が属 する統一的な区分ごとにまとまりのみられた区分種以外の出現種を整理しております。

追加で頂いたご指導・ご意見を基に、再度組み直した表を作成致しました。

表 1(1) 群落組成表

		2文 1 (1)		什冷祖以衣		
ケマキは地域の分割をからからなった。	コリラ神楽区分離 コリック コリック コリック コリック コリック コリック コリック マッチャッチック マッチック アッチャック アッチャッチック アッチャッチャッチック アッチャッチック アッチャッチャッチック アッチャッチック アッチャッチャッチック アッチャッチャッチャッチャッチック アッチャッチャッチック アッチャッチャッチック アッチャッチック アッチャッチャッチック アッチャッチック アッチャッチャッチャッチャッチャッチャッチャッチャッチャッチャッチャッチャッチャッ	スダジイ群等 図分種 スダッイ スダッイ スダッイ スダッイ スダッイ スグッイ フラカッ フラカッ フラカッ モチノキ モチノキ	種名	田 (1) (4) (1) (4) (1) (4) (1) (4) (1) (4) (1) (4) (1) (4) (1) (4) (1) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	価年図の禁務名	【・ペーキに土」   : スタジノ群落   : スタジノ群落   2: コナラ群落   3: ケヤキ群落   4: プカマツ値末本   5: プカマツ値林   6: 竹林
S H H S 12 H S 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12	н № 77 11 77 11 11 11 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12	S I S I S I S I I I I	羅圖			7. 8. 10. 11.
* * * * * * * * *		5.5 1.2 1.2 1.1 1.1 1.1		1 20 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	(ダジノ群雑	スギ・ヒノキ植林 ハリエンジュ植林 先駆性木本群落 アカメヤナギ群落 アズマネザサ群落
	++			200 27 7 7 2	コナラ群落	林 格 雅 格 格 雅 格 格 格 格 格 格 格 格 格 格 格 格 格 格
* • • • • • *	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			20 20 20 20 20 27 7 7 7 7 7 7 7 11/2 14 14 14 14 14 14 14 14 14 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16	コナラ群落	
	+ . 11			5 20 20 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	コナラ群落	
****	+ 5 5 12 4			6 20 7 8 8 8 8 8 8 8 8 8 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	1 小り群株	
* * * * * * * *	5.5 2.2 1.1 1.1			2 2 2 7 7 7 8 8 8 8 8 7 7 7 7 7 7 7 7 7	コナラ群落	
				8 8 20 20 8 8 7 7 7 8 7 7 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	1 小ラ群族	
****	2.11223			9 20 27 27 27 27 27 27 27 27 27 27 37 4 4 5 15 16×16×16 18 18 18 18 18 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19	1 ナラ群権	
		22		10 22 3 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	1 小 小 辞 様	
1-2				20 0 1 函数 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	クチャ母族	ų.
12				19	イカマツ亜高米林	
	· <u>E</u>			5   5   6   6   7   7   7   7   7   7   7   7	本業ペイケン	
				- A - A - A - A - A - A - A - A - A - A		
				2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	<b>弁</b> <sup>3</sup>	
				6 220 220 220 220 220 220 220 220 220 22	禁 章	i .
* *   * *     * *				200 日本 7 7 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	<b>主</b>	
				25 25 26 27 27 28 28 28 28 28 28 28 28 28 28 28 28 28	〈ギ・ヒノキ補林	
				224 24 26 27 27 28 28 220 220 220 220 220 220 220 220 2	<b>〈ギ・ヒノキ補林</b>	
* * * * * * * * *				7 7 25 20 7 7 7 7 7 8 8 180 180 180 180 20 20 20 20 20 20 20 20 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40 40	⟨ポ・ヒノキ桝林	ı.
	1			223 220 220 220 220 220 220 220 220 220	〈ギ・ヒノキ術林	Į.
				26 26 27 28 28 28 28 28 28 28 28 28 28 28 28 28	〈ギ・ヒノキ術林	
* * * ½ * * * * *				数 7 7 28 8 7 7 7 8 8 9 8 8 9 8 8 9 8 8 8 9 8 8 9 8 8 9 8 8 9 8 8 9 8 8 9 8 8 9 8 9 8 8 9 8 9 8 8 9 8 9 8 8 9 8 9 8 8 9 8 9 8 8 9 8 9 8 8 9 9 8 9 8 9 8 9 8 9 8 9 9 8 9 9 8 9 9 8 9 9 8 9 9 9 8 9	(コピソジュ海株	
				12 20 20 7 7 7 7 8 8 8 8 8 8 8 1 1 6 8 1 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	2. 原性不本群落	ŧ
, <u>I</u> . ,				9 9 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	2. 原性未本群落	ŧ
· 1. · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 2	2.原性木本群落	
				15 15 15 16 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17	ノカメヤナギ群族	í
					アズマネザサ群発	I
				17 20 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	アズマネザサ群落	1
			甲甲	, Ц		
⊔ 10 10 4 ⊔	on 21 00 00	□ 22 08 12	田田規数	1		

# 表 1(2) 群落組成表

			衣	(2)	群洛組戍衣				
マラル4ウラスの種シラカシシラカシシラカシシラカシシラカシシラカシシシカカシシャーにサカキにサカキでイカカメラティカカメラティカカメラティカカメラティカカメラティカメランド・ファイカメード・ファイカスティカカメラティカカメラティカカメラティースナーストル・ファイカカメラティースカルスラティースカルスラティースカルスラースカルスラースティースティースティースティースティースティースティースティースティースティ	アズマネザサ弊殊区分権 アズマネザサ アズマネザウ アズマネザウ	<b>アカメヤナギ弊落区分種</b> アカメヤナギ アカメヤナギ	先駆性水本群構成分面	こりました。 こりました。 こりました。 こりました。 こりました。 こりました。	<b>メキ・ビンキ組体機能</b> スメポ スメポ スメポ スメポ スメポ スメポ ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・ス・	<b>** 本本語業権</b> ペダケ ペダケ ペダケ ペダケ ペダケ ペガケ ペガケ ペガケ ペガケ ポウンウチク	ž.	桝生図の群落名	(不本組生)   (不本組生)   (スタジイ解層
72 72 73 74 75 75 75 75 75 75 75 75 75 75 75 75 75	ΣS	72 =	$S \stackrel{\text{\tiny $1$}}{\sim} S \equiv S \stackrel{\text{\tiny $1$}}{\sim} \Xi \stackrel{\text{\tiny $2$}}{\sim} S$	□ s ∃	I S 77 1 H S 77 1	72 E S 72	・ <b>アカマツ植#</b>   T2		7. 11. 10.
. 1.2 2							・・種数	< ダジノ群を 	7: スギ・ヒノキ 植林 8: ハリエンジュ 植林 9: 先駆性木本群奏 10: アカメヤナギ群落 11: アズマネザサ群落
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·								コナウ群器	林落林
	i							コナラ群家	
. 2 2	Ξ:Ξ					(B) (B) (A) (A) (A) (A)	• ≊	コナラ森森	
		* •						コナラ群祭	
								コナウ株器	
2 2 1 .					. + + 🗒			コナウ群器	
12 . 12 - 11 22 11 .	Ξ.				+ • • • • • •	****		コナウ井添	
								コナル非常	
2:1			+ 🖫				ω	クヤキ样素	
		* •				*****	4.4	2カマツ里高水林	!
			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				2.2	ノカマツ循林	
								艺术	:
· - · · · · - · - · · · · · · · · · · ·	. –	2.2				1 1 + + 1 4 1 1 + + 1 4	6	李云	
2 . 1 1 1 .					· · · · + · 122	<u> </u>		李芑	
		* •			2.55 1.1			〈 ギ・ヒノキ 植林	ı
½ . ½ ½								〈ギ・ヒノキ植林	ı
2 · · · · · ½ · · - ½ · · · · · · · ·							7	〈ギ・ヒノキ値林	(
2 2					+ · · · 5 + · · · 11	*****		ベギ・ヒノキ値林	ı.
<u> </u>					<del>5</del>			〈ギ・ヒノキ 植林	ı
				5.5 2.2 1.1				ハリエンジュ商林	
	Ξ.	* *		ш.		*****		<b>光顯性不不群落</b>	ŧ
		2.1	2:2 2:2 3:3				9	<b>光樂作不在你</b>	ŧ
	. 1.2	٠.	2.2					光顯性不不群然	F
	1 3	, 51 51					10	くカメヤナギ群族	
	1.1	ш.						アストネササ群落	!
	, 5·5i	E 4				* * * * *		アズトネザサ群族	1
	Ц						Ц		
17 18 18 19 10	9	22	410 84	-	5 13	N 10 01 01 01	C.C		

# 表 1(3) 群落組成表

			<b>火衣</b>	3) 件冷祉以	<b>我</b> 1 (c					
1: スダジイ群落 2: コナラ群落 2: ケヤ・群落 4: ケカマツ重高木林 5: アカマツ種林 6: ケボ	極生図の群落名	アオキアオキ	シャン・シャナキャン・シャン・シャン・シャン・シャン・シャン・シャン・マイレー・シャン・マン・マン・マット・マー・シャン・シャン・シャン・シャン・シャン・シャン・シャン・シャン・シャン・シャン	シュロ シュロ シュロ オオンペイノモドング キブツンキ キンヴン ナンヴン オセンジャノビゲ ジェンヴン エクジン	プサウラスの機 イベンテ イベン イベン イベン イベン イベン イベン イベン イベン	ロペンガマス: ロックガマス: ウリカエデ ウリカエデ フリカエデ フォンダ デオンダ サンショウ サンショウ	サンドロウツケバネウジギックバネウジギックバネケジボチウジボ	キャワルツ ドンロウカドデ ドンロウカドデ バズギ ベズギ	サオノキ ガマズ: ガマズ: グマウ/ (スカ//ラ	オトコヨウゾメ オトコヨウゾメ
110.98.7	ı	zszs	N I N I N I N I N I N I N I N	TTTTSSTTT	. н н х н х н х н х н х н т з	SS ZESES	s = = s =	12 s 1 s	z s z s z	□ s
スギ・ロノキ植林ハリエンジュ植林ハリエンジュ植林 た駆性木本群落 アカメヤナギ群落	スダジイ群祭				++			=		
<b>非</b>	コナル群然			* • 1 • • • • • •						
	コナラ群家				11.515					
	コナレ群衆		( (		2.2.		. :		;	÷
	コナラ群者	1 × - •								
	コナル弁器	+								
	コナウ群器						+.			
	コナル辞録	+ • - •			- + + • • • • • • •				5	
	コナウ件器									
	A 400 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 1	$\vdash$	P ===	<b>-</b>	_					
	ケヤキ群族	ω	<u> </u>		H 10					
	アカマツ亜高水林	4								
	アカマツ檀林									
	<b>左</b> 朱									
	<b>左</b> 乘	. + • • 6								
	む本	• • 🗄 -								
	スギ・ヒノキ植林	••==		*******						
	スポ・ヒノキ植林	2·2 + · · · ·								
	スギ・ヒノキ植林	+ • - • 4		• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •				=		
	スポ・ヒノキ植林		· · · · = · · · · · · · · · · · · · · ·	+ • • • • • • • •						
	スポ・ヒノキ植林									
	ハリエンジュ信林									
	先駆作不不群落		<u> </u>							
	先駆性不不群落	9								
	先娶性不不辞務									
	アカメヤナギ群株	10						<u> </u>		
	アズマネザサ推索									
	アズマネザサ柱枠	±								
		Ш								
		Ç	ب عه ۱۵ مح حم حم	10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	10 5 5 5 5 S	ان در در در	ک کی	21 21	21 27 21	51

# 表 1(4) 群落組成表

												1	Cζ I	(4,			マルロルで										
アクドアマチャジルオクマララビ	スイカズラスイカズラアケビ	マムシグサ リョウメンシダ Eメコウゾ	カナムグラ ススキ	インド ミズビキ カナムグラ	ツュクサ	セイタカアロルチソウ ツタ	1737 1737 1437 1437 1437 1437 1437 1437	ロルギミがも	アカバ クキイギリ アギギ(ボキ	ヒカゲイノコズチ アセビ アセビ	9X 4~975 5~~~	XX.	・プログラル・アプログラル・マグレンセメラ	4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	ベンベアケビ	ソジャンペウジオ・ペアンペウジオ・ペアンペア・ケア・ペランペア・ケア・	<b>福作権</b> フジ	イボタノキ	ポウチャクソウ サワフタギ ヤマロウバシ	イヌザクラ ヘリギリ	カマジカ カマジカ アカツル	ログシ	ウワミズザッラ ウワミズザッラ ウワミズザッラ		植生図の群落名		1: スダジイ群落 2: コナラ群落 3: ケヤキ群落 4: アカマツ重高木林 5: アカマツ椿林 3: 竹林
===	12 II s	SEE	==	os 🗆 o	==	s II s	s s E	===	EEI	I SO I	IXI	T2		o I co I	I os E	įπαπ	111 S	=	===	ΞΞ	SIS	I SS I	≖ s 12 <b>1</b>	_			11. 10. 8. 2. 11. 7. 3. 3. 3. 7. ア 3. 3. 7. 7. 7. 7. 7. 7. 7. 7. 7. 7. 7. 7. 7.
					• #	• • •		• -		• ‡				+ •	ļ.,		+ • •	•		• +					群終	スダジイ	7: スギ・ピノキ種林 8: ハリエンジュ種林 9: 先駆性木本群落 10: アカメヤナギ群落 11: アズマネザサ詳落
								• •	• • Ξ	Ξ.	<u> </u>							•		• •		1.1			淼	ユナラ群	牛林落落抹
							: ⋅				2.2					· I · I	2·3	٠	•						*	コナラ群	
				• •	• [		•				) <u>-</u>			. ) •							t t t		33		淼	ュナラ群	
					• •				1	Ξ.	1 • •														*	コナラ群	
										+														8	*	ュナラ様	
				N							· <u>=</u> ·														34	サラヤラ群	
		* * =							• • Ξ	Ξ.		٠.	5		+ • •	. + . +									*	ユナラ群	
											1							-							3%:	コナウ件	
	. = .				- Ξ			- •		• +			22											ω	鹨	ケヤキ样	,
		* • •	Ξ.						·.2			. 1.2	·		+ • •	÷ · + ·				ж.				4	軍高水林	アカマシ	ı
			<u>:</u> .									1.2 1.2												СП	奔商	アカマシ	Į.
																	1.2	·		1 10/10						さ本	:
														+ 4		+		·						6		李耳	•
					. 1.2	1.2								+ •												<b>字</b> 耳	Ę.
		· 2· 1															22 3	,							ノキ権林	スギ・ヒ	
		. : .						• -									2								ノキ値林	スポ・ヒ	
		• 🗄 -				:		Ξ.	• = •				• =10	+ •		· · <u>=</u> +	· <u>:</u> ·			• •				7	ノキ植林	スポ・ヒ	
								- •						**											ノキ値林	天子· Ti	
				• = •	- •	:																			ノキ福林	スポ・ヒ	
			: ⋅			2.2	Ξ	į	· · · ·	• 3		Ξ.			į · ·									00	ジュ福林	くシェン	
																1							ŀ		<b>全蒜</b> 後	先期前不	ŧ
																1 - 1								9	<b>全群</b> 卷	光麗 作人	F
																	2.2	,							<b>全蒜</b> 添	化聚 作人	ŧ
																	. 1.2						- }	10	<b>计</b> 光精探	ナととす	l.
																								$\dashv$	产产样线	アメマネ	Į.
				<u>:</u>		:						5.4												=	产中结缔		
																							ļ				
010	10 10	ယယယ	ယ	د جا ت		خرخ	ن حر	1 01 01	01 01	ଧା ଫ	65	~1	oc o	ေမွ	Č	10	13	<b>,</b>				-	н				

# 表 1(5) 群落組成表

														坔	'	(5)	,	和-	+ /1	计	コノツ	(1)	<										_
ーンデュ アメミズ ロホチャンネングサ ヤブへだイチョ ヤブマメ	としてなるだ。	ドクダミ	アオ・ツッグラフ・ジ ダイコンソウ	アカン	コアカン タチツボスミレ ノコンメク	ベンシグ	ハエドクソウ ホンバナ・ライシダ	イジガペホンマム イジガペホンマム イジガペジンア	メスピアンギ	スルデ イタドリ	メントイン	クキャント	7400K	イチョウミュウガ	オ·カメデ・ナ ヒイラポモクセイ	トウゴカミツパツツジ ツカバネ	キッコウングマ ソヨゴ	コバノミツバッツジ カシロッジ・グマ	ムチャクンジ コアジャイ	イロンホッジャプレガキ	オンセイ	サストリイベラ	ジルウメモドキアズマザサ	ヤマグワ ツルウメモドキ	56,64	ソモアシダ	ノボウン	カラスウリ ノイベラ	++ (+		集任図の原料名	6: 竹林	<ul> <li>(へへ・個工」</li> <li>1: スタジイ群落</li> <li>2: コナラ群落</li> <li>3: ケヤキ群落</li> <li>4: アカマツ重高未林</li> <li>5: アカマツ越林</li> </ul>
IIII	s 13 s	II	II	sΞ	III	ΞΞ	==	==:	==	==	S 12	!=:	ΞΞ:	ΣSI	sΞ	ΞS	ΞΞ	ΞS	ΞI	ΞΞ	==			s =	s =	==	= s	SH					7: スギ 8: ハリ 9: 先馬 10: アカ 11: アズ
		• •					3 %												• •		+ +	+ 12	+ •	<i>3</i>	• •		. 5		_	86	ダジム群	×	<ul><li>スギ・こノキ権林</li><li>バリエンジュ権林</li><li>・ 先駆在木本群塔</li><li>・ アカメヤナギ群塔</li><li>・ アズマネザサ群落</li></ul>
							• •																				• •				ナラ群権	ľ3	OR DAY
							· K	H •								* •				+ +				H 1	• •	2 2					ナラ群落	U	
		٠.																	. +						٠.				.		ナラ群落	IJ.	
						٠.																			٠.				.		ナラ群落	u	
								ж -								ж -															十号群落	ដ	
																0.0	[ ]	+ Ξ	Ξ•												十号群落	ŭ	
				٠.				* 1			, ,					٠.								4.5							ナラ群落	IJ	
																												5			ナラ群落	ß	
												+	+ +	+ +	<u>-</u> 1.2												_ •		. <sub>ω</sub>		・ヤチ群発	4	
							. x	ж с		2.2	1.2	· ·				x e											- *	×	4	李子郎	ゼッショ	y	
										+ •																			. 5	*	とケシ酒	7	
																													H		李	*	
																													. 6		李:	\$	
									+ +																			. + .	.		李:	\$	
							. H	н								ж -								ж .					Н	そ福本	( ( ・ )	×	
								. [																						水畜李	<b>、</b> ホ・カノ	×	
								F.																						大南水	(ボ・カ)	v	
																													Ш		(ボ・カン		
		•	• •	•																									Н		ボ・カン		
																													Н		シェンジ		
																													Ш		/ 嬰性不全	#	
																													11	辞经	/ 駅 作 人 个	#	
				• •			> ×									* *					* *				٠.			Ξ.,	Ш	禁 終	**************************************	#	
++++3	1-2											. I.										٠.		(a) •)					10	光幕炎	カイヤナ	Y	
																								+ •					. =	<b>珍華</b> 华	キャイン,	Y	
												r (*)																		路禁牛	キャイン.	Y	
																						. = .	_	No.	h-	ho. •	. K	10 10 11					
								,		_	_											_	_		~ r0	. r≎	10 PC	to be b					

表 1(6) 群落組成表

-1	^	. (0)	•	μТ	71	۰ ٦	I,T	.,	^	, -,	_
ボントクタデ ツルドクダミ			黄生図の群葬名			6: 竹林	5: アカマツ植林	4: アカマツ亜高木林	3: ケヤキ群落	2: コナラ群落	1: スダジイ葬塔
SΞ							=	10	9	60	7
	1	*	上非	6	K.F.		11: アズマネザサ群落	10: アカメヤナギ罪	9: 先駆性木本群落	8: ハリエンジュ植	・スギ・ヒノキ補
٠.			森森	VI	4 1	ı	群落	松	操	東	莽
			森森	VI.	4 1	i					
			務禁	VI	41	í					
			森森	71	41	i					
	2		杂雜	VI.	4 :	i					
			遊離	\JI	4 2						
			群海	VI.	4 1	i					
			群海	SI	4 1	i					
	3		路葉	+	40						
	4	年大李	: 走, 爻	4	7	į.					
	5	*	シ畜	Þ	7	Į.					
					李二	ŝ					
	6				<b>*</b> =	5					
					来ご	r.					
		半衛朱	: \ r	٠	北〉						
		チ箱体	r C	•	七〉	!					
	7	半福余	· \ r	•	长〉	1					
		半値条	: \ п	•	七十						
		チ値外	· \ r		イナ	1					
٠.	8	は植林	66	Н	<b>(</b> )						
		路等	÷ >.	产	代票	Ŧ					
	9	群 络	***	亲	大栗	Ŧ					
		終報	! <del>&gt;: &gt;:</del>	杀	古栗	F					
	10	生命	( <del>++</del>	×	3	á					
+	11	水群络	***	4	×	\$					
Ξ.		少样名	***	4	××	į.					

表 1(7) 群落組成表

	<b>X</b> 1	4	NI.	111		衣 I (7) 群洛組队衣	_
<b>シナダレスズメガヤ群落区分種</b> シナダレスズメガヤ	<b>ススキ・セイタカアワダチソウ群落区分種</b> セ <i>イタカアワダキソウ</i> H ススキ	セイタカアワダチソウ群落-クズ群落区分種 ケズ 日	<b>オオブタクサ群落区分種</b> オオ <i>ブタク</i> サ	<b>ヨモギ群権区分種</b> オオンベコ ヨモギ ヨモギ	種名	商年図の群略名 時点以a. 時点以a. 時点以a. 時点以 (日) (日) (日) (日) (日) (日) (日) (日) (日) (日)	(具本福生] 1: 日本洋算落 2: オナブタウサ群落 2: オイブタウサ群落 3: セイタカアワダチソウ・クズ群落 4: ススキ・セイタカアワダチンウ群落 5: シナダレスズメガや群落 6: チガマ群落 6: チガマ群落
Ξ.	落 田田 田 分	華 格 田	工	Н Н	層		サ落 ち群落
	÷ .	<b>全種</b>	2.2	. 2.2		撃 大臣 1 大臣 1 大臣 1 1 1 1 1 2 3 2 3 3 3 3 3 3 3 5 5 5 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	8. 10. 12. 13. 14.
	1.2	1.2	5.5			・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	8: イヌビ工群落 9: ボントクタデ群落 10: エンソンパ群落 11: ヨシ群落 12: クサヨシ群落 13: オギ群落
	. ů	3. 3.	×			タズ群落 カイタカアワダチンウ - 111 - 12 - 13 - 13 - 14 - 15 - 15 - 15 - 15 - 15 - 15 - 15	格
	2·2 4·3	2.3	<u>:</u>	· ± ·		セイタカアワグチソウ群落 98×94 110 12 25 101 10 12 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11	
	ယ ယ ယ ယ	٠	٠			カイタカアング弁シウ群落 100~1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
	ω ω ώ ώ	+	*	+ • •		カイタカアフグチンウ群落 102~~14億週~~25mm ~ 25mm	
	ယ ယ ယ ယ	*	*			会権 カイタカアフダチンウ群落 スペー・ スペー・ スペー・ スペー・ スペー・ スペー・ スペー・ スペー・	
2.2	Ξ+	+	(•)	• + •		シナダフスズメガヤ群器 0880~8地線85番週 05.21.81.781.781.781.781.781.781.781.781.781	
			(*)	· <u>:</u> .		アガケ群株 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	
			٠			ユーリッパー 雑雑 キベロコンド ボージャン 200 200 200 200 200 200 200 200 200 20	
	• +					17 11 フリコクサ群権 28 28 28 28 28 28 28 28 28 28 28 28 28	
	• +	٠	٠			ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス ス	
	• •	×	٠			ジャントクタデ群雑 9 1001 17 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20 20	
	• •	•	(●)			6 - 100 - 1 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3	
		•	.•			ルンンズ群線 - 10 - 10 - 10 - 10 - 10 - 10 - 10 - 1	
٠	2.2	*	٠			11 日本 11 日本 12 日	
		+		2.2		20 - 3 - 1 - 3 - 1 - 3 - 1 - 3 - 2 - 2 - 2 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3 - 3	
	2.2	2.3	٠			7 - 10 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 -	
		*	×			11 2 2 4 6 1 1 1 1 1 2 2 2 4 6 1 1 1 2 2 2 6 8 1 2 2 2 6 8 1 2 2 2 6 1 1 1 2 2 2 6 1 2 2 6 1 2 2 6 1 2 2 2 6 1 2 2 2 6 1 2 2 2 6 1 2 2 2 6 1 2 2 2 6 1 2 2 2 6 1 2 2 2 6 1 2 2 2 6 1 2 2 2 6 1 2 2 2 6 1 2 2 2 6 1 2 6 1 2	
ь	10 7	œ	ယ	7	出現 回数		

表 1 (8) 群落組成表												
シロザクラスの種 カタバス コゴメガヤツリ オオアレチノギリ アキノエノコログ中 オオイスノフグリ カヤツリグ中 エノギグサ スペリヒュ	ヒシ群落区分種で	<b>才半群落区分種</b> 才半	<b>クサヨシ群落区分種</b> クサヨシ セリ	3) 非落区分種 3)	ミゾンパ群落区分種ミゾンノバ	ポントクタデ群落区分種 ボントクタデ	イヌビエ群落区分種 イヌビゴ	メビシバ・エノコログサ群落区分種 メビシノベ エノコログサ	<b>チガヤ-ススキ群落区分種</b> チガヤ		だ XEンバーエノコロクサ#権 植生図の群替名	【草本植生】 1: ヨモギ講祭 2: オオプタウサ群落 3: セイタカアワダチンウ・クズ群落 4: ススキ・セイタカアワダチンウ群落 5: シナダレスズメガや群落 6: チガヤ群落 6: チガヤ群落
	Ι	Ξ	II	Η	Ξ	Ξ	I	<b>#</b>	Η	П		推 格 格 格
+ + + .	•					•			٠	-	目子子群落	
		٠								2	************************************	8: イヌピエ群落 9: ボントクタデ群落 10: ミゾンバ群落 11: ヨシ群落 12: クサヨシ群落 12: ケヨシ群落
			• •						•	ω	クズ群落セイタカアワグチソウェ	格
	٠	•				•	*		٠		セイタカアワダチソウ群落ススキー	
			• •							4	セイタカアワダチソウ群権ススキー	
				•	•		•		•		セイタカアワダチソウ群裕ススキー	
			• •								セイタカアワダチソウ群落ススキー	
	•	٠		٠	٠	٠	+			ហ	シナダレスズメガや群落	
								2.2	3•3	6	チガヤ群落	
+ • • + • 🖫 • +				٠	•	٠		3·3 2·2			エノコログサ群落メヒシバー	
								. 5·5		7	エノコログサ群落メヒシバー	
		٠				٠	သ သ	. :		∞	イヌビエ群が	
			+ •		·	4.4				9	ボントクタデ群落	
			+ •		ပ ပ	Ξ					ミゾソバ群権	
		٠	2.3	•	Ω.	•				10	ミソンパ群な	
	٠	٠	2·2 1·1	5. 5.	•	٠			٠	11	ヨシ群落	
+			3.4	<del>-</del>	+		•			12	クサヨシ群が	
	٠	4.4					×	. *		13	オギ群落	
	5. 4						٠			14	という。	

	表 1 (9) 群落組成表	_
aシクラスの種 コウヤリラピ 田 臓食種 カナムグラ 日 カナムグラ 日 にメジョオ・ソ にメジョオ・ソコクサ カキドオ・ソコクサ カキドオ・ソコクサ カキドオ・ソフジ カキドオ・ソフジ カキドオ・リー ローフジ フジネノボタ・ 日 フジスだキ キンベスだキ ロース・アンボンス・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア・ア	マウコギオーダー、タウコギクラスの種 アメリカセンダングサ 日 オオイスタデ 日 オカサブロウ 日 イスタデ 日 アゼナ韓国の種 チョウングタデ 日 ドキワハゼ 日 デンツキ 日 ドキワハゼ 日 イスガラシ 日 イスガラシ 日 イスガラシ 日 オイバコクラスの種 イスガラシ 日 オーボングー オーボングー カーボングー カーボングー カーボングー オーボングー オーボングー オーボングー オーボングー オーボングー カーボー カーボングー カーボー カー	【草本値生】 1: ヨモギ群落 2: オオブタケサ群落 3: イオブタケサ群落 4: ススキ・セイタカアワダチソウ・クズ群落 5: シナダレスズメガヤ群落 6: チガヤ群落 7: メビンバ・エノコログサ群落
. + +	. +	ヨモギ群務の 5 11 2 2 2 4 7 7 7 8 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7
		8: イスピエ群塔 10: ポントクタテ群塔 10: ポントクタテ群塔 11: ヨシ森海 11: ヨシ森海 14: ピシ森海 14: ピシ森 海 イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ
		AR クズ群体セイタカアワダチソウェ
		セイタカアワダチソウ莊落ススキー
		セイタカアワダチソウ群落ススキー
		セイタカアワダチソウ群落ススキー
+ . ½ + + . ½ Ξ		セイタカアワダチソウ群落ススキー
		シナダレスズメガや群然
. +	+ .+ 5	チガヤ群落
<u> </u>		エノコログサ群落メヒシバー
	· · · + · · · · · Ξ · · ·	エノコログサ群落メヒシバー
	1 . 1 . 2	イヌビエ群落
. +		ボントククデ群を
		ミンソパ群落
		ミンソバ群路
		ヨシ雑株
+ · + · · · · · · · · · · · · · · · · ·	+ · · · · · · +   [5]	クサヨシ群落
2		4.7. 辞経
		カツ雑祭

# 表 1 (10) 群落組成表

		ウスアカカタバミ		セイヨウタンボボ			1.777		7				オニドリロ				フィス・ログル			子上		ツルヨシ		アズキ						コロノエ			ノフナメイロアント															毎州図の言葉石	苗子図の黒溪を						ことにノー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7・メアシバーエノコログキ群核	6: チガヤ群落	5: シナダレスズメガヤ群落	4: ススキ-セイタカアワダチソウ	3: セイタカアワダチソウ-クズ群	2: オオブタクサ群落	1: ヨモギ群落
=		=	I	Η	Ξ	Π		5 2	Ε;	I	112	H2	Η	Ξ	Ξ	Ξ.	= =		= :	I,	I	Ξ	I	Ξ	工	Ξ	Ξ	I	Ξ	I	Į	==	Ξ.	1 =		IJ =	Ε;	=	H2	I	Ξ	Г	1																群落	級		
		•	٠	٠						•	•				٠			•			+	+	+	+	+	+	1.1	1.2	•	+					•				•	٠	•	۲	-								¥.	報	# 1	Hυ		14.	<b>1</b> 3	12	=	10	9	œ
		•	٠		•		1.	• 1	•		٠			•	٠	٠		•	+	+	٠	٠	•	٠		٠	٠										• ;	Ξ	•	٠	•	2	٥					×:	梨、	+	4	4	V, 2	<b>∱</b> ≽	44	下ご群落	オギ群落	クサヨシ群落	ヨシ群落	ミゾンバ群落	9: ボントクタデ群落	イメロエ群落
,		٠	•	·		÷			•		٠	•	٠		•			•		•	•	٠	í	·			٠	٠			,		٠			•			•	٠		cc	٥		7 *	J '	۷,	#	St.	Ŋ.	₹ ;	4	本と	4 1	77 45						洋落	1
			٠	٠		•		e y	•		Ť	•		٠		+		+		٠	•	٠	•	•				٠	٠		•			1 9	•		•	٠			•			褡	帮	4	٧ ک	#	II.	Ŋ			イケイ									
		•	•	٠			•		•	•		•		÷	+			•	•	•	•	•		•		٠	•			•		•	•						•	+		4	_	褡	群	4,	٧,	#	X,	D			ケイン									
		٠	•	٠				• 1	•	•	٠	+	+	٠	٠	٠		•	•	•	٠	•	•	•		٠	٠	٠						e 2•		•		•	+	٠				褡	华	4,	٠ ٢	#	H.	Ŋ			ケイン									
		٠	•	·	•	•			•	+	+	•	÷	٠		٠		•		•		٠	·	·	•	٠		٠	٠			•	٠			H E	:	ě	٠	٠	+1			褡	群	4	٠ ټ	#	Hi.	D			ケイン									
	٠	٠	٠	٠	,	+	1.0	) t	٥.,٥		٠	•	٠		٠	,		•			٠	٠	•	•	•	ŗ	٠	٠				•			•		9.9	٠	٠	٠	٠	O	1		一	票-	4	Ħ	*	K	K	ζ,	A, ~	+ <	~							
	•	•	•	+	+	٠					•	٠	-	٠				•			•	•	•			٠	•	•	+	•				-	+					•	•	σ:	6							į	<b>新</b>	報-	4 5	±, `	4							
	+	+	<u>:</u>			٠	•			•								•		•	•	٠	•			٠	٠					•			•		•	+		٠		7	a					<b>淡</b> .	報	#	<i>H</i> -	Д ·	ロト	~ h	4							
0.1	5.	٠	٠	ě	٠	•		. 1	•	•	ě	٠	٠	•	٠			•			•	٠	·	•			٠	٠		٠	•		+				•	•	٠	٠	•							×.	罪				ロ〜ロ									
,	٠	•		٠	•	•	•		•	•	•	•	•	•	٠	٠		•	•	٠	٠	•	•	•	•	٠	٠	٠	•	+		٠	+		•	•			٠	٠	٠	œ	0						î		#	Н	π, >	4 -	\							
	•	•	•	•		•	•		•	•	٠	٠	•	٠	٠			•	•	•	•	•	•			٠	•	٠			1.1		٠		•			•	•	1·1	٠	9						×.	架	AT.	A.	7	<b>ァ</b> ∖	( )	ŧ							
,		٠	4.	٠					•	•	•	•		٠	٠	•		•	•	•	•	٠	•	•		٠	٠	•				+				•		•	•	٠	•	10	5						Î	拔	#	J. 1	\chi \	L. 1.	/)							
		٠	•	٠	٠	٠		. 1	•	•	ě	٠	٠	٠	٠	٠		•	•		٠	٠	•	٠	•		٠	٠	٠	٠	7.2		٠		•	•	•	•	•		•								Ī	核	#	). ·	\chi \	ć., 1.	n							
	٠	٠	٠	٠	•	٠	•		•	•	٠	٠	٠	•	٠	٠			•	٠	٠	٠	•	•	•	٠	•	٠	٠	•	•	٠	•		•		•	٠	٠	٠	1.2	F	-								i	詳報	株へ	(° п	Ц							
		٠	•	٠	٠				•	•	٠	٠	٠		٠	•		•	•	•	•	٠	٠	•	•	٠	٠	٠	+		•	•	•	-	+ -		•	•	•	٠		12	5						i	蒸	#	(° 1	Щ ~	¥ ×	77							
	•	٠		٠	•	•	•		•	•		•	•	٠	٠	. 10		•		•	•	•		•	•	٠	•	•						0 2	•	•		•	•	٠	+	13	3								İ	=   核	井	# 7	4							
	٠	٠	•	٠	٠	٠		. 1	•	•	٠	•	٠	٠	٠	٠		•	•	•	•	٠	•	٠	٠	•	٠	٠	٠	٠	•	٠	٠		•		•	•	•	•	•	14	2								Ĭ	幹	が	, ι	Ϋ́							

# 表 1 (11) 群落組成表

											-	LX.	'	(11) 仲冷仙火久							_
コマツヨイグサ	アズマネザサ	ヒルガオ	ジュズダ〜	ドカザミ	ミツバアケビ	ヘリガネワラビ	シロダモ	ミゾコウジュ	チゴザサ	アメリカフウロ	タカサブロウ	ザクロソウ		植生図の群落名	7: メヒシバ-エノコログサ群落	6: チガヤ群落	5: シナダレスズメガヤ群落	4: ススキ-セイタカアワダチソウ群落	3: セイタカアワダチソウ-クズ群落	2: オオブタクサ群落	1: ヨモギ群落
I	I	I	工	Ι	I	Ξ	工	工	Ξ	工	工	Ι	_	•				群落	辮		
													1	ョモギ群落	14:	13:	12:	<del>=</del>	10:	9:	 
													2	オオブタクサ群落	14: ロシ群落	13: オギ群落	12: クサヨシ群落	11: ヨシ群落	10: ミゾンバ群落	9: ボントクタデ群落	8: イヌビエ群落
	•					•	•					•	ಎ	クズ群落 セイタカアワダチソウ i			Tribet		цит	群落	nhat.
												•		セイタカアワダチソウ群落ススキー							
														セイタカアワダチソウ群落ススキー							
													4	セイタカアワダチソウ群落ススキー							
														セイタカアワダチソウ群落ススキー							
													5	シナダレスズメガヤ群落							
													6	チガや群落							
														エノコログサ群落メヒシバー							
										+	1:1	<u>.</u>	7	エノコログサ群落							
								+	·				8	メヒシバーイヌビエ群落							
									1				_								
•	•	•	•		+	+	+	•	•	•	•	•	_	ボントクタデ群落							
•	•	•	•	1.1	•	•	•	•	•	•	•	•	10	ミゾソバ群落							
٠	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		ミゾソバ群落							
٠	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	11	ョシ群落							
+	+	+	Ξ	•	•	•		•				•	12	クサヨシ群落							
			•			•	•	•	•		•	•	13	<b>才</b>							
				•	•	•		•	•	•	•	•	14	ヒン群落							

## 21. 低反射型太陽光パネルの景観について

低反射型太陽光パネルは、黒っぽく見えるため、必ずしも周囲の景観となじまない可能性も ある。官ノ倉山からの眺望に関しては、目隠しの為の植林などの可能性を検討すること。

官ノ倉山からの眺望を、下の予測写真(準備書 図 8-1-7-4(12))に記載しました。ここで、 赤い線は石尊山の山体を示しています。この石尊山の起伏地形により、その向こう側に存在する 太陽光パネルは、その大部分が隠されることとなります。地形のみを考え植生の存在を考慮しな い場合、一部、石尊山の尾根の上部分に、太陽光パネルが見通されるものと予測します。

しかしながら、現況でも石尊山の尾根部分には、既に植生が存在し、対象事業実施区域がほとんど確認できないと想定される状況にあります(準備書 図 8-1-7-4(11):次頁写真)。

この石尊山の尾根周辺の植生は、残置森林として残すこととし、この残置森林による太陽光パネルの目隠し効果を維持する計画といたします。



注:図中の灰色面は石尊山の地盤面を示し、手前の植生を透過した際に対象事業実施区域が視認できると予測される位置を示している。

図 8-1-7-4(12) 官ノ倉山 落葉期 (将来)



図 8-1-7-4 (11) 官ノ倉山 落葉期 (現状)

### 22. ミゾゴイなど他の種の事後調査について

ミゾゴイなど他の種については、事後調査は行わないのか。

### ミソゴイの営巣地について

準備書で報告されていたのは古巣とされていたと思いますが、追加調査で新たに発見されたミソゴイの営巣地は新しいものでしょうか。また、8 月ころのネットニュースなどで報道されている、地元の方々の調査で確認されたという営巣地はヒナの写真もありましたが、今回発見されたものはそれとは異なるものでしょうか。

ミゾゴイについて準備書の公表後に新たな営巣地の確認に臨んだ結果(追加調査)、確認した新しい巣の位置は、図 22 に示すとおりです。

この巣の位置は現状で改変区域内であることから、その周辺の改変を取り止める方向で検討を 進めておりますが、改変区域に近いことを踏まえて、本種の事後調査について検討してまいりま す。

追加調査で確認した巣は、公表されている写真と現地での確認状況から、同じ巣であると考えております。

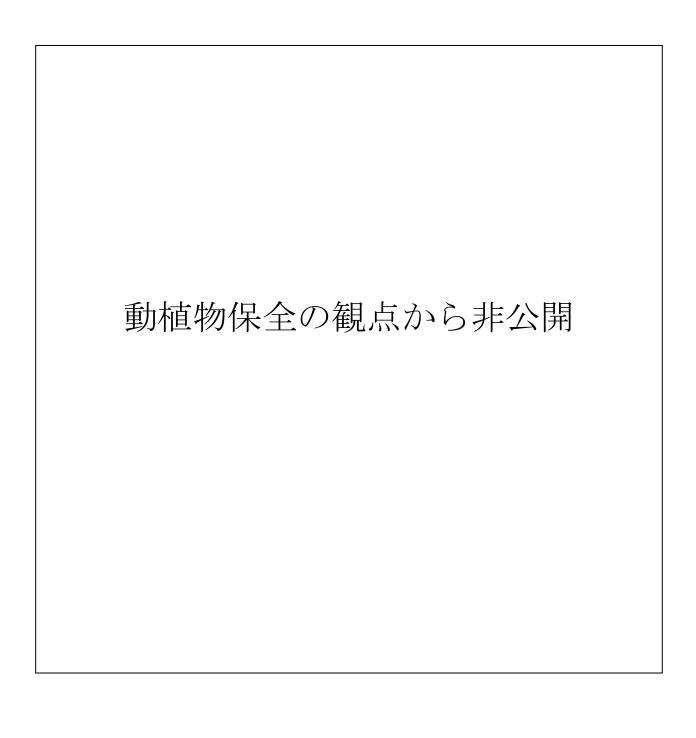


図 22 ミゾゴイ 営巣地確認位置